

2023

山梨県 専門研修プログラム



山梨県地域医療支援センター

目次

	ページ番号
【内科】	
・ 甲府共立病院内科専門研修プログラム	1 ~ 2
・ 市立甲府病院内科専門研修プログラム	3 ~ 4
・ 山梨県立中央病院内科専門研修プログラム	5 ~ 6
・ 山梨大学内科専門研修プログラム	7 ~ 8
【小児科】	
・ 山梨県立中央病院小児科専門研修プログラム	9 ~ 10
・ 山梨県小児科専門医研修プログラム	11 ~ 12
【皮膚科】	
・ 山梨大学医学部皮膚科研修プログラム	13 ~ 14
【精神科】	
・ 山梨県立北病院精神科専門研修プログラム	15 ~ 16
・ 山梨大学連携施設 精神科専門医研修プログラム	17 ~ 18
【外科】	
・ 山梨県立中央病院外科専門研修プログラム	19 ~ 20
・ 山梨県外科領域専門研修プログラム	21 ~ 22
【整形外科】	
・ 市立甲府病院整形外科専門研修プログラム	23 ~ 24
・ 山梨県立中央病院整形外科地域専門研修プログラム	25 ~ 26
・ 山梨大学整形外科専門研修プログラム	27 ~ 28
【産婦人科】	
・ 山梨県統一産婦人科専門研修プログラム	29 ~ 30
【眼科】	
・ 山梨大学眼科専門研修プログラム	31 ~ 32
【耳鼻咽喉科】	
・ 山梨大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム	33 ~ 34
【泌尿器科】	
・ 山梨大学医学部附属病院泌尿器科専門研修プログラム	35 ~ 36
【脳神経外科】	
・ 山梨大学医学部脳神経外科専門医研修プログラム	37 ~ 38
【放射線科】	
・ 山梨大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラム	39 ~ 40
【麻酔科】	
・ 山梨大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム	41 ~ 42
【病理】	
・ 山梨大学医学部病理専門研修プログラム	43 ~ 44
【臨床検査】	
・ 山梨大学医学部附属病院 臨床検査専門研修プログラム	45 ~ 46
【救急科】	
・ 山梨県立中央病院救急科専門研修プログラム	47 ~ 48
・ 山梨大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム	49 ~ 50
【形成外科】	
・ 山梨大学形成外科研修プログラム	51 ~ 53
【リハビリテーション科】	
・ 山梨大学リハビリテーション科専門研修プログラム	53 ~ 54
【総合診療】	
・ 甲府共立病院群総合診療専門研修プログラム	55 ~ 56
・ 市立甲府病院総合診療科専門研修プログラム	57 ~ 58
・ 山梨県立中央病院総合診療後期研修プログラム	59 ~ 60

【内科】

甲府共立病院内科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：甲府共立病院
2. プログラム責任者名：西山 敦士
3. プログラム内容問い合わせ担当者名：井口 誠二
Tel : 055-226-3131 / E-Mail : senmoni@s.yamanashi-min.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 8:50～17:10
土 8:50～13:00（祝日および第4土曜除く）
5. プログラム説明会開催日：随時開催。ご都合のつく日でご相談ください。



2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年・3名
2. 連携施設（県内）：①山梨大学医学部附属病院、②山梨県立中央病院、③市立甲府病院、④石和共立病院
※特別連携施設…巨摩共立病院、甲府共立診療所、竜王共立診療所、武川診療所、御坂共立診療所、共立診療所さるはし
3. 連携施設（県外）：①埼玉協同病院、②汐田総合病院
4. 地域医療研修方針：地域医療を重点的に行う研修先は、石和共立病院（連携施設）、巨摩共立病院・各診療所（特別連携施設）とする。
 - 1) 外来診療においては、退院した患者のフォローアップ、慢性疾患医療、急性疾患の診療を行う。
3年間のうち、週1回1年以上を経験する。
 - 2) 訪問診療においては、多職種と連携しながら、高齢者医療、終末期医療を行う。3年間のうち一定期間行う。
 - 3) 保健予防活動においては、健診や健診後のフォローアップを行う。また、健康友の会を中心とした地域住民に対し、健康講話や健康相談会を行う。
 - 4) 各病院の役割や地域の医療資源を理解し、専門医への適切な紹介や、地域の医療機関や介護施設への橋渡しを行う。
5. ローテーション方針：専門研修1年目、2年目は甲府共立病院で研修を行います。
いずれかの年で上級医として初期研修医の教育に携わります。専門研修3年目に連携施設・特別連携施設で研修します。また、将来像や研修達成度の状況に応じて、サブスペシャルを重点的に研修を行う期間を設けることも可能です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医1年目	甲府共立病院 総合診療病棟											
専攻医2年目	総合診療病棟				循環器内科				消化器内科			
専攻医3年目	山梨大学											

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 多彩な症例を経験できる

多彩な症例を経験でき、内科医としての基本的な力、総合的な力が身につけられるプログラムになっています。救急は甲府地区救急搬送の約 20%を担っています。山梨県メディカルコントロール協議会に参加し、重症心疾患疑い、消化管出血症状患者の医療機関が確保できない時の責任医療機関の 1 つとなっています。

2. 多彩なフィールド・将来像を考えたローテーション

甲府共立病院を基幹施設とし、連携施設は診療所から大学病院まで様々なフィールドがあります。将来の自分の医師像にあわせてローテーションしていきます。主な内科の特色は以下を参照ください。

・総合診療病棟

2010 年に山梨県内で初めて総合診療病棟を立ち上げました。総合診療病棟では、様々な疾患、合併症を持つ方、診断のつきにくい方など全身を診て、適切な治療を行い、必要に応じて専門医に紹介します。専門医が少ない膠原病、神経、血液などの疾患も診療します。また、心理、社会的な患者さんの抱えるさまざまな問題に、多職種で総合的にアプローチしています。初期・後期研修医の教育病棟としても機能し、多彩なカンファレンスを開催しています。

・消化器内科：

消化管・肝胆膵と消化器分野のほぼすべての領域の疾患を扱っています。

消化管：上部消化管内視鏡検査は約 6200 件、下部消化管内視鏡検査は約 1300 件。その他に小腸疾患に対するカプセル内視鏡検査、早期胃癌、早期食道癌に対する ESD、胃食道静脈瘤に対する内視鏡治療、大腸ポリープ、早期大腸癌に対するポリペクトミー・EMR、悪性消化管閉塞に対するステント留置、胃瘻増設・食道瘻増設を行っています。

肝胆膵：ERCP、内視鏡治療困難な胃食道静脈瘤に対するカテーテル治療、肝臓癌に対する腹部アンギオ検査、並びに TACE・RFA、胆嚢炎・胆管炎に対するエコー下穿刺ドレナージ、総胆管結石に対する内視鏡的治療、悪性胆道閉塞に対する内視鏡的ステント留置、難治性腹水に対するデンプーシャント術を行っています。

日本消化器病学会関連施設、日本肝臓病学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設。

・循環器内科

心不全、虚血性心疾患、不整脈など、循環器疾患全般を受け入れています。虚血性心疾患の歴史は古く、冠動脈造影は 1979 年、PCI は 1987 年から施行しています。最近の PCI 症例数は年間 250 例前後で、そのうち約 90%でステント留置を行っており、成功率は約 98%。心臓リハビリテーションも積極的に行っており、心臓病を持つ患者さん一人ひとりの状態に合わせた安全な運動療法を指導し、食事や生活についてアドバイスを行っています。

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設。日本心血管インターベンション治療学会研修施設。

3. 地域をみる

入院から退院、通院、在宅まで治療の流れを通じて一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整を包括する全人的医療を実践し、患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の習得を目標としています。詳細は「2.プログラム概要 4.地域医療研修方針」参照。

4. 内科教育病院としての実績

甲府共立病院は市中病院では山梨県内唯一の内科教育病院として内科医育成にも力を入れ、質の維持、向上を行ってきました。日本内科学会関東地方会幹事の役割も担いました。

【内科】

市立甲府病院内科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹病院名：市立甲府病院
2. プログラム責任者名：沢登 貴雄
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：沢登 貴雄
Tel : 055-244-1111
E-Mail : sawanobot@kmh.kofu.yamanashi.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 8:30～17:15（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 3名
2. 連携施設（県内）：①山梨大学医学部附属病院、②山梨県立中央病院、③甲府共立病院
3. 連携施設（県外）：なし
4. 地域医療研修方針：高次機能・専門病院である山梨大学医学部附属病院と山梨県立中央病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術的活動の素養を身につける。
地域基幹病院である甲府共立病院では、当院と異なる環境で地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修し、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。
5. ロテーション方針：専攻医の希望と連携施設に偏りが生じないことを踏まえる中で、市立甲府病院内科専門研修プログラム管理委員会にて決定する予定である。
また、専門研修2年目または3年目の1年間に連携施設へのローテートを予定している。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 本プログラムは、山梨県中北医療圏の中心的な急性期病院である市立甲府病院を基幹施設として、山梨県中北医療圏にある連携施設である山梨大学医学部附属病院、山梨県立中央病院、甲府共立病院における内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある医療、「いのちに光を、心にやすらぎを」の基本理念に基づいて、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練される。研修期間は基幹施設 2 年間 + 連携施設 1 年間の 3 年間になる。
2. 市立甲府病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とする。
3. 基幹施設である市立甲府病院は、山梨県中北医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

4. 市立甲府病院内科専門研修 週間スケジュール（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科 朝カンファレンス<各診療科 (Subspecialty)>					担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会・学会参加など	
	内科外来診療 (総合)	内科検査 <各診療科 (Subspecialty)>	入院患者診療 (病棟)	内科検査 <各診療科 (Subspecialty)>	入院患者診療 (病棟)		
救急オンコール							
午後	入院患者診療 (病棟)	内科入院患者カンファレンス	内科外来診療 <各診療科 (Subspecialty)>	入院患者診療 (病棟)	入院患者診療 (病棟)		
		入院患者診療 (病棟)			救急オンコール		
夕方	内科入院患者カンファレンス	抄読会	地域連携カンファレンス		研修会・CPCなど		
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など							

○多職種カンファレンス	第1木曜日	17:30～18:30
○臨床倫理カンファレンス	第2木曜日	17:30～18:00
○研修委員会	第4金曜日	18:00～18:30
○医局会	第4金曜日	17:30～18:00
○内科専攻医カンファレンス	第3木曜日	17:30～18:30
○内科合同カンファレンス	第1月曜日	18:00～18:30

【内科】

山梨県立中央病院内科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹病院名：山梨県立中央病院
2. プログラム責任者名：梅谷 健
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：梅谷 健
Tel：055-253-7111 E-Mail：umetani-amrp@ych.pref.yamanashi.jp
4. プログラム内容問い合わせ担当者名：石川 知
Tel：055-253-7111 E-Mail：kenshu@ych.pref.yamanashi.jp
5. 問い合わせ可能日時：随時 Mail または電話でお問い合わせください。Home page にも掲載あり

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 5名
2. 連携施設（県内）：①山梨大学医学部附属病院、②市立甲府病院、③甲府共立病院、④山梨病院、
⑤富士川病院、⑥富士吉田市立病院、⑦山梨赤十字病院、⑧都留市立病院
※特別連携施設：韮崎市立病院、北杜市立甲陽病院、北杜市立塩川病院、組合立飯富病院、
身延山病院、南部町医療センター、上野原市立病院、丹波山村診療所
3. 連携施設（県外）：①諏訪中央病院、②千葉大学医学部附属病院、③横浜市立大学附属病院、
④横浜市立大学附属市民総合医療センター、⑤群馬県立心臓血管センター、⑥
杏林大学医学部附属病院、⑦神奈川県立循環器呼吸器病センター、⑧亀田総
合病院、⑨青梅市立病院、⑩国立病院機構災害医療センター、⑪武蔵野赤
十字病院、⑫東京医科歯科大学医学部附属病院、⑬東京都立多摩総合医療
センター
4. 地域医療研修方針：山梨県立中央病院内科専門研修プログラムは、山梨県立中央病院を基幹施設
として、県外施設を含めた多数の専門医研修連携施設、県内地域医療を担う専
門研修特別連携施設から構成されています。臨床研修指定病院での研修により
プログラム基幹病院での研修の不足分を補うとともに、急性期医療、高度医療の
経験を積みます。また、当院、及び大学附属病院での研修を通して臨床研究への
参加、手法、解析の経験をします。地域基幹病院では地域住民の健康管理にも
積極的に参加し自立した医療活動を経験します。

5. ローテーション方針：研修期間は基幹施設 2 年間 + 連携施設/特別連携施設 1 年間の 3 年間で基本となります。専門研修 2 年目の春に当事者の希望、将来像、研修達成度、メディカルスタッフの研修評価により 3 年目の研修施設を調整します。**当院での各内科ローテーションは本人の希望を聞きながら、自由度高く選択可能です。**
- 基幹施設において短期間で十分な研修ができた場合には基幹施設での研修を 1 年で終了し複数の連携施設、特別連携施設にて併せて 2 年研修をすることもできます。また、基幹施設での研修を 1 年目と 3 年目に分けて行うこともできます。研修期間は初期研修終了後の卒後 3 年から 5 年目までの 3 年間で基本とします。
- 3 年間の研修を年単位で分割して“飛び石”にすることや、卒後 4 年目以降に専門研修を開始することも可能です。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 現在の研修内容：5 名の募集に対して、2021 年度は 2 名、2022 年度も 2 名の応募があり、当院にて内科専門医研修を行っています。地域基幹施設でもあり、二次救急を担当する市中病院として common disease を多く経験し、地域医療との病診連携を経験できます。当院 home page 後期研修募集(<https://www.ych.pref.yamanashi.jp/recruit/1267/>)に専攻医の声が掲載されているので、参照してください。
2. 当院は数々の山梨県のセンター機能を担っており、臓器別の sub-specialty 領域に支えられた専門的医療が行われています。様々な状況での臨床判断や手技、技術を熱意ある指導医のマンツーマン指導のもと磨き上げることができます。高齢化社会で複数の診療科にわたる疾患を多面的に治療する診療科間連携を、cancer board, vascular board を通して日常的に行っています。
3. 一般病院として唯一のゲノム解析センターを有し、専攻医機関みずから臨床研究に積極的に取り組み、学会活動、論文投稿行い、リサーチマインドを根付かせる指導を行っています。
4. 本人の希望に合わせて、内科領域のローテーション研修、初年度からの sub-specialty 重視の研修も可能であり、3 年目には連携している県外専門施設での研修も可能です。
5. 現在当院にて研修している内科系専攻医は、当院プログラムの 6 名と、**他施設の基幹プログラムとの連携**で 14 名の内科系専攻医が研修をしています。

【内科】

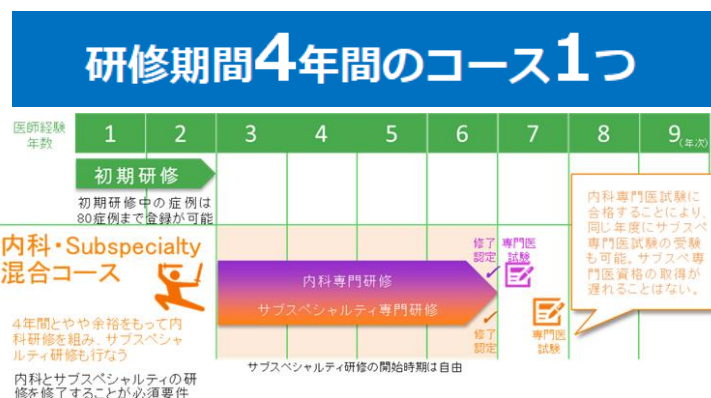
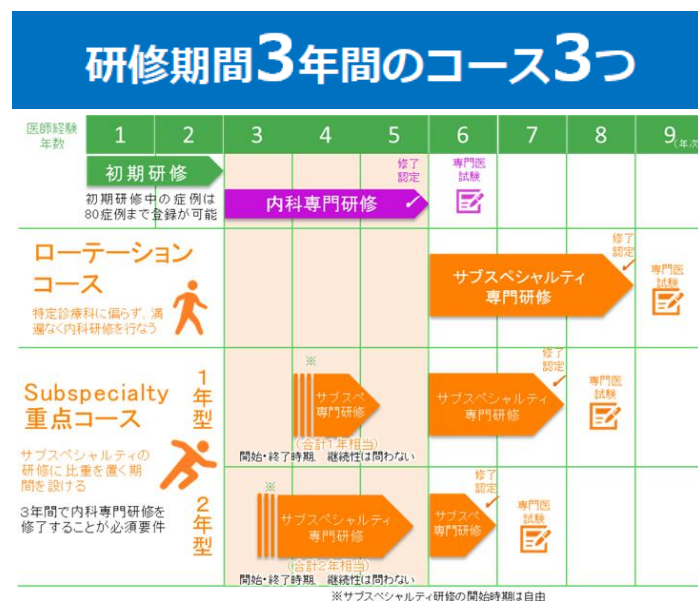
山梨大学内科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：榎本 信幸（病院長）
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：
川島 一郎（血液・腫瘍内科助教） E-Mail : ikawashima@yamanashi.ac.jp
桐戸 敬太（血液・腫瘍内科教授） E-Mail : kirito@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9:00～17:00（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 20名
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②市立甲府病院、③甲府共立病院、④甲府城南病院、
⑤山梨厚生病院、⑥富士吉田市立病院、⑦山梨病院、⑧富士川病院
※特別連携施設：韮崎市立病院、加納岩総合病院
3. 連携施設（県外）：①武蔵野赤十字病院、②都立多摩総合医療センター、③東名厚木病院、④新百合ヶ丘総合病院、⑤国立病院機構下志津病院、⑥藤枝市立総合病院、⑦沼津市立病院、⑧新潟市民病院、⑨立川総合病院、⑩竹田総合病院
※特別連携施設：共立蒲原総合病院
4. 地域医療研修方針：山梨大学病院(基幹施設)にて単独で症例経験や技術習得に関して修得可能であっても、地域医療を実施するため、また日本内科学会が定める内科専門研修カリキュラム上でも必須とされているため、本プログラムの全てのコースにおいて専門研修3年間のうち最低1年間は連携施設での研修を行うこととします。また、これは連携施設へのローテーションを通じて、山梨県医療における人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持に貢献することにもなります。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。
5. ローテーション方針：研修期間3年間のコース3つと、4年間のコース1つを設けています。当プログラムが基本コースと位置付けているのは、研修期間3年間のsubspecialty重点コース(2年型)です。3年間の内科専門研修期間にsubspecialty研修を2年間オーバーラップさせる研修で、最短での内科専門医、subspecialty専門医の取得が可能なコースとなります。



3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 本プログラムは山梨県内において唯一すべての内科系 subspecialty 領域をカバーしている山梨大学医学部附属病院を基幹施設としているため、症例の多様性に富み、希少疾患を経験する機会にも恵まれています。また、県内最多の指導医数を有し、充実した指導体制を構築しています。
2. 本プログラムでは subspecialty 重点コース（1年型、2年型）ならびに混合コースを提供しており、さらに、内科系 subspecialty のほぼすべての領域の認定教育施設となっているため、内科専門医取得後の選択肢が大きく広がっています。
3. 本プログラムは大学病院を基幹施設としているため、臨床研究や基礎研究などのリサーチマインドの涵養に関して極めて秀でた指導体制を提供することができます。リサーチマインドは内科専門医に求められる重要な資質の1つであり、本プログラムを遂行することによって十分にそれは習得可能となります。

【小児科】

山梨県立中央病院小児科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨県立中央病院
2. プログラム責任者名：星合 美奈子
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：星合 美奈子
Tel：055-253-7111 E-Mail：hoshiai-bcwe@ych.pref.yamanashi.jp
4. プログラム内容問い合わせ担当者名：石川 知
Tel：055-253-7111 E-Mail：kenshu@ych.pref.yamanashi.jp
5. 問い合わせ可能日時：月～金 8：30～17：15（祝日除く）
6. プログラム説明会開催日：予定あり（詳細決まり次第ホームページに掲載します）

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 2名
2. 連携施設（県内）：①山梨大学医学部附属病院、②富士吉田市立病院、③山梨赤十字病院、④都留市立病院、⑤韮崎市立病院、⑥富士川病院
3. 連携施設（県外）：なし
4. 地域医療研修方針：当院は、山梨県中北医療圏の中心的な急性期病院です。「信頼される質の高い医療を提供し、誰もがいきいきと暮らせる地域社会づくりに貢献する。」を基本理念に掲げています。総合母子周産期センター、高度救命救急センターを擁し、県内の小児医療においては、山梨大学医学部附属病院と協力しながら隣接した医療圏も含めて高次医療に対応しています。
研修の中心は山梨県立中央病院の小児科および新生児内科で、合計1年6ヶ月の研修を予定しています。当院小児科は近隣の診療所、医院や地域連携病院から多くの紹介症例を受け入れており、指導医のもと病棟での担当医として診療にあたりるとともに、外来での初診対応、慢性疾患のフォローアップの研修も行います。新生児内科では、NICU、GCUにおいて超未熟児を含めた低出生体重児、周産期の新生児疾患、先天疾患等の診断から治療について研修します。また多職種連携や地域連携の実際を、多くの症例で経験します。
5. ローテーション方針：1年目前半 当院で研修
1年目後半 山梨大学医学部附属病院で研修
2年目～3年目の1年間 大学小児科関連病院群で研修
（上記のような研修において、山梨県を中心に幅広く活躍出来る小児科医の育成を目指します）

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

『山梨大学医学部小児科との連携』

山梨大学医学部小児科と密に連携し、研修 1 年目の後半 6 ヶ月間は山梨大学医学部附属病院で研修を行います。山梨大学では、慢性疾患や難病・希少疾患症例の診療を担当医として経験します。また山梨県全体をカバーする大学小児科関連病院群が連携施設であり、2 年目あるいは 3 年目に 1 年間研修します。ここで小児科全般の疾患の初期対応や予防接種や乳幼児健診等の小児保健・社会医学も研修し、主治医として外来診療から検査、診断、入院加療まで自立して対応できる力を養います。

『山梨県小児救急医療への参加』

山梨県では、すべての子どもたちが 24 時間にわたり 1 次から 3 次医療までを受けられるように、小児救急医療システムが構築・整備されています。さらに病院勤務医の負担軽減も考慮されており、全県の小児科医の協力のもとシステムが良好に運用されています。当院は 2 次医療の中核として機能しており、年間多くの救急症例を受け入れています。時間外の 2 次輪番病院の一つとして時間外医療も担っており、指導医のバックアップのもと月 2-3 回程度の時間外 2 次救急当番を担当します。また当院は、山梨大学医学部附属病院と協力して 3 次医療を提供しており、この 2 施設では集中治療室での重症例の管理、治療も研修します。

『山梨県小児の地域医療への参加』

山梨県の小児科医療では、大きくは甲府市を中心とした中部～峡東医療圏と、それ以外の地域医療圏とに分かれており、その中に、富士五湖周辺の富士東部医療圏、また韮崎市、北杜市、富士川町などの北部及び峡南医療圏があります。山梨県立中央病院小児科専門研修プログラムでは、1 年目の山梨県立中央病院と山梨大学医学部附属病院での基礎研修が終了した後、2～3 年目の研修期間に、地方の地域医療を担っている 2 次病院の研修を行います。そこでは、地域に密着した小児医療のみならず、地域の健診や予防接種などを含め全人的な医療の研修を行います。1 年目の研修を基礎に、3 次医療との協力体制や 3 次への搬送の判断も含めて医療システム全体を認識しつつ様々な症例経験を積んでいくことを期待します。

『学問的姿勢の習得』

本プログラムでは、日本小児科学会地方会での演題発表を年 1 回、日本小児科学会学術集会での発表を 2 年目あるいは 3 年目で 1 回は行います。研修終了までに、原著あるいは症例報告を筆頭著者として指導医のもと最低 1 編は発表することを目標とします。これを通して、専門医として求められる学問的姿勢を習得します。

【小児科】

山梨大学小児科専門研修プログラム

1 基本事項

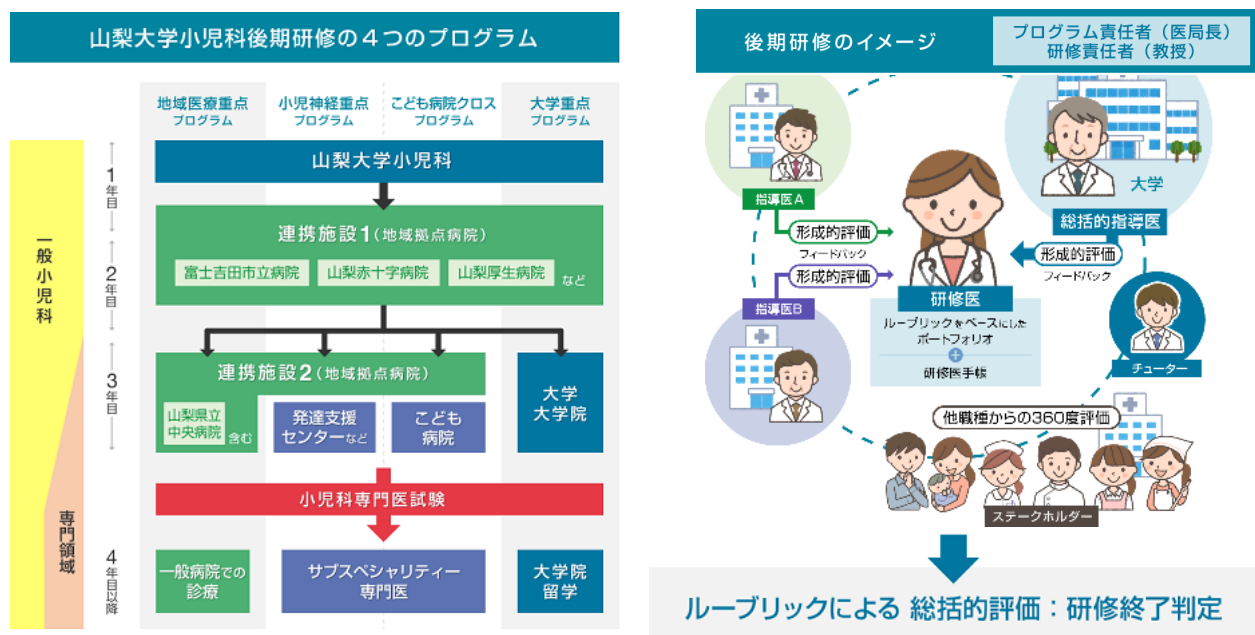
1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：犬飼 岳史
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：
Tel：055-273-9606（小児科医局）
合井 久美子 E-Mail：kgoi@yamanashi.ac.jp
矢ヶ崎 英晃 E-Mail：yagasaki@mwd.biglobe.ne.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9:00～17:00（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年・6名
2. 連携施設（県内）：①国立甲府病院、②山梨県立中央病院（小児科、新生児内科）、③市立甲府病院、④甲府共立病院、⑤県立あけぼの医療福祉センター、⑥山梨厚生病院、⑦富士吉田市立病院、⑧山梨赤十字病院、⑨県立こころの発達総合支援センター甲府クリニック
3. 連携施設（県外）：①諏訪中央病院、②長野県立こども病院、③静岡県立こども病院
ほか、国内外の専門施設での臨床研修など、研修内容により相談に応じます。
4. 地域医療研修方針：地域拠点病院などの関連病院で一定期間研修を行い、地域医療、二次救急医療などについて研修します。
5. ローテーション方針：個人面談で希望の研修をヒアリングして、希望に沿った研修施設や研修期間を決定していきます。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

『小児科は小児の総合診療医、いろんな疾患を全部みることができる！』



1. 特定の分野にかたよらない、小児科の全分野の研修が可能です。

小児科学会の指定する、主要 10 分野

- (1) 遺伝、染色体異常、先天奇形 (2) 栄養障害、代謝性疾患、消化器疾患
 (3) 先天代謝異常、内分泌疾患 (4) 免疫異常、膠原病、感染症
 (5) 新生児疾患 (6) 呼吸器疾患、アレルギー (7) 循環器疾患 (8) 血液疾患、腫瘍
 (9) 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患 (10) 神経・筋疾患、精神疾患、心身症

2. 後期研修の内容について、自分だけのポートフォリオを作成し、オリジナルな研修を行っていきます。

ポートフォリオとは、自分だけの研修内容と評価が記録されたファイルです。

チューターや地域研修の指導医と一緒にポートフォリオを作成して、研修の記録と評価と行います。

3. サブスペシャリティの専門医も取得可能なプログラムです。

血液専門医、内分泌代謝専門医、糖尿病専門医、循環器専門医、周産期・新生児学会専門医、
 小児血液がん専門医、造血細胞移植学会認定医、臨床遺伝専門医、小児循環器専門医、
 てんかん専門医・小児神経専門医 などが小児科専門医の後に取得可能です。

4. 高度な研究や、国内国外への留学の実績があり、臨床・研究能力を高める道が用意されています。

研究のアクティビティは高く、学会や論文発表数も多く、国内外への留学研修も積極的に行います。

【皮膚科】

山梨大学医学部皮膚科研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：川村 龍吉
3. プログラム内容問い合わせ担当医名
Tel : 055-273-9856
三井 広 E-Mail : hmitsui@yamanashi.ac.jp
岡本 崇 E-Mail : tokamoto@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9：00～17：00（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：5年・7名
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②山梨厚生病院
3. 連携施設（県外）：①東京北医療センター
4. 地域医療研修方針：山梨県内では悪性腫瘍に対する手術や、希少疾患、重症患者などについては基幹病院である山梨大学医学部附属病院皮膚科でその治療を主に担っている。一方、common diseaseとしての皮膚疾患を連携施設で幅広く研修することとなる。県立中央病院は県内では大学と並んで高度医療の提供を行う病院である。山梨厚生病院は脊損病棟や精神科病棟を併設し、基幹施設での経験の少ない疾患背景を有する患者の経験が可能である。東京北医療センターは東京都に存在し、県内では経験の少ない疾患の研修に優位性がある。
5. ローターション方針：研修プログラムにはいくつかのモデルコースを用意しているが、原則1年目は基幹施設で研修を開始している。1年目は基幹施設で主に入院患者を受けもち、重症症例から手術症例まで皮膚疾患の病態・治療について幅広く知識と手技を習得する。2年目以降、より多くのcommon diseaseを含めた疾患を経験するため、大学の再診患者を中心とする外来診療や、連携施設へのローテーションを行う。1つの連携施設での研修の年限は原則最長で1年である。複数の連携施設での研修を希望する専攻医とは、相談の上にローテーションの時期、期間を決定する。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 山梨県内唯一の皮膚科研修プログラム

本プログラムは県内唯一の皮膚科研修プログラムである。基幹施設は県内唯一の大学病院であるため、県内における希少疾患、重症症例、手術治療を含めた悪性腫瘍などの多くの患者は、山梨大学医学部附属病院皮膚科との連携のもとに治療が行われている。すなわち、皮膚科専門医として習得の必要なほぼ全ての疾患が、本プログラム終了までに経験可能である。

2. 高い専門医試験合格実績を誇るプログラム

本プログラムは旧学会認定専門医制度のプログラムを踏襲した上で作成している。当科を中心とする皮膚科専門医育成プログラムは、症例の経験、手術手技などの習得、病態の理解など臨床医に必要な能力を獲得する上で優れた経験と実績を有する。皮膚科専門医の習得は5年間の研修期間中に、症例の経験のみならず学会発表による点数の取得、3編以上の原著論文の提出が必要である。経験豊富な指導医と、個々の症例に対し多角的な検討を行うことにより、学術的価値の高い学会発表、論文作成を行うことができる。専攻医は英文での論文作成も積極的に行う。これらの過程により、疾患に対する知識を深めるだけでなく、常に論理的思考を養うことが可能である。

3. 研修コースの柔軟性

連携施設へのローテーション方針については上述の通りであるが、他にも山梨大学形成外科にも準連携施設としてプログラムに参加していただいている。これは皮膚外科手技をさらに極めたい、という専攻医の希望に応えるため、形成外科の協力のもとに用意している。希望者は研修期間中に相談の上に時期や期間を決定する。

4. 研究 mind の育成

当教室は臨床のみならず研究においても国内外から高い評価を得てきた。複数の研究グループが存在し、それぞれの優秀な指導者とともに、研究手技の習得が可能である。また、journal club や research conference への参加はオープンで、常に最新の知見の習得が可能である。大学院への進学希望者には研修期間中より入学可能なコースを用意している。

【精神科】

山梨県立北病院精神科研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨県立北病院
2. プログラム責任者名：宮田 量治
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：宮田 量治
Tel : 0551-22-1621 E-Mail : miyata.ryoji@ymail.plala.or.jp
4. プログラム内容問い合わせ担当者名：深澤 創（事務担当者）
Tel : 0551-22-1621 E-Mail : fukasawa-amje@ych.pref.yamanashi.jp
5. 問い合わせ可能日時：電話でのお問い合わせについては、平日午後3時以降に対応しています。
メールでのお問い合わせについては随時回答していますので、お気軽にご連絡ください。
6. プログラム説明会開催日：例年、サマーセミナー（または、オータムセミナー）を行っています。
今年度は、9月17日（土曜日）に対面式で実施する予定です。詳細については、決まり次第、北病院ホームページ上に掲載いたします。
(<https://www.ych.pref.yamanashi.jp/kitabyo/recruit/>)

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年間・4名（年度あたり）
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②甲府共立病院、③山梨大学医学部附属病院
3. 連携施設（県外）：①慶應義塾大学病院、②桜ヶ丘記念病院
4. 地域医療研修方針：当院にて地域医療研修も実施。
5. ローテーション方針：
研修期間中に3～6ヶ月程度、連携病院において、総合病院精神科（リエゾン精神医学）研修を実施します。他の期間については県立北病院において研修を行います。
6. その他：
当院は、山梨県精神科医療の基幹的な病院でありながら、地域医療の実践の場ともなっており、専攻医の皆さんがまず研修すべき精神障害を豊富に経験できる施設です。後期臨床研修の3年間でさまざまな精神疾患に対応できる力をつけることは容易ではありませんが、北病院では、乳幼児を除くほぼ全ての年代／精神疾患に対応し、豊富な経験を通して、さまざまな精神疾患への対応を幅広く研修できます。また、初診（年間約900例）の3割は20歳未満の思春期例で、若年の患者割合が高いことが特徴です。
当院では、救急急性期症例、指定医症例・専門医症例を無理なく経験でき、司法精神医学、アルコール依存症治療なども身近なものとして体験できます。また、地域の医療福祉保健サービスの専門機関等と

連携をはかりながら、訪問看護や通院リハビリテーションを活発に行っており、多職種チームによる精神科地域医療にも取り組んでいます。重症慢性例への治療選択肢とされるクロザピン、および、mECT（修正型電気けいれん療法）については、県下の7割以上を当院で実施しています。このようなことから、当院は精神科医として第一歩を踏み出そうとしている皆さんにはうってつけの病院だと自負しています。

よい医師は、患者さんが育てるものです。たくさんの経験を通し、試行錯誤する過程を体験し、医師は力をつけていきます。そのためには、最先端の情報を集めたり、まとめたりすることも必要となりますが、文献の探し方、学会発表、希望者には臨床研究に参加したり、英語論文作成指導も行なっています。

研修は大変なこともあるかもしれませんが、研修医の皆さんの一生の宝となれるようにスタッフ一同頑張りますのでよろしく願いいたします。ぜひ一緒に新しい精神科臨床を切り開きましょう。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 最初の半年間はオーブンネーベン制で精神科の基本を習得／クルズス形式の講義
2. 救急から慢性例／軽症から重症例／小学生から高齢者ケースまで幅広い多数の臨床経験
3. 児童思春期、依存症（アルコール、ゲーム等）、司法精神医学などの専門領域を1カ所の施設で経験
4. PSW, OT, 心理師, 保健師, その他の多職種スタッフとの精神科チーム医療を経験
5. クロザピン導入、持効性注射剤導入、mECTなどの重要な精神科治療技法を習得
6. 頻回の症例検討会議により実践的な精神科臨床（治療計画立案と実施と評価）を経験
7. 接遇や強制治療審査システムにより、精神科医療者としての倫理観をごく自然に習得

<甲府駅から車で35分、甲府盆地の西部（韮崎市）に位置する県立北病院／中庭>



【精神科】

山梨大学連携施設 精神科専門医研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：鈴木 健文
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：上村 拓治（医局長）
Tel：055-273-9847
E-Mail：takuji@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：随時メール等にてお問い合わせください。
5. プログラム説明会開催日：令和3年7月28日（水）（予定）
詳しくはホームページに掲載します。お気軽にお問い合わせください。

2 プログラム概要

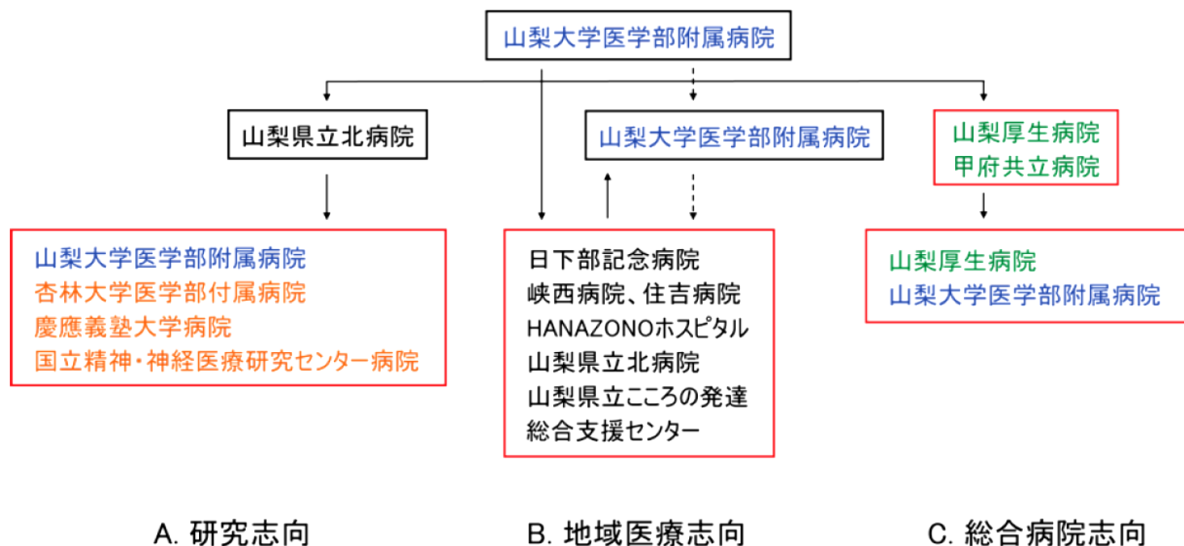
1. 最短研修年数・募集人員：3年・8名
2. 連携施設（県内）：①日下部記念病院、②峡西病院、③住吉病院、④HANAZONO ホスピタル、
⑤山梨厚生病院、⑥山梨県立北病院、⑦甲府共立病院、
⑧山梨県立こころの発達総合支援センター
3. 連携施設（県外）：①国立精神・神経医療研究センター病院、②杏林大学医学部附属病院、
③慶應義塾大学病院
4. 地域医療研修方針：各病院がそれぞれに特色を持った社会復帰や退院支援の取り組みを行っており、本プログラムによる研修で幅広い経験ができる。
5. ローターション方針：1年目に基幹施設である山梨大学医学部附属病院で精神科医としての基本的な知識を身につける。2～3年目にはそれぞれ特徴のある連携施設をローテートし、幅広い症例を経験する。ローテート順については本人の希望に応じて柔軟に対応する。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

基幹施設、連携施設にはそれぞれ得意分野があり、複数の病院をローテートすることで幅広い経験を積むことができる。

- 山梨大学医学部附属病院：気分障害が主体、修正型電気けいれん療法、身体合併症、臨床研究
- 山梨県立北病院：県内の中核的な単科精神病院であり、多様な症例を経験できる。
- 日下部記念病院：認知症診療、加納岩総合病院との連携、修正型電気けいれん療法
- 峡西病院：認知症診療
- 住吉病院：アルコール専門病棟、摂食障害を含むアディクションの治療
- HANAZONO ホスピタル：複数の附属のグループホームがあり、社会復帰活動を活発に進めている
- 山梨厚生病院：総合病院内の精神科、身体合併症治療やリエゾン・コンサルテーション、がん緩和ケア
- 甲府共立病院：精神科病床のない総合病院であり、リエゾン症例が豊富
- 山梨県立こころの発達総合支援センター：児童精神科、幼児から成人も含めた発達障害の診療
- 国立精神・神経医療研究センター病院：医療観察法病床、修正型電気けいれん療法、臨床研究
- 杏林大学医学部附属病院：気分障害が主体、リエゾン・コンサルテーション、教育的なカンファレンス開催
- 慶應義塾大学病院：気分障害が主体、リエゾン・コンサルテーション、教育的なカンファレンス開催

ローテーションモデル例



(注) 赤い四角内の施設群は、専攻医の興味・志向により選択可能。

【外科】

山梨県立中央病院外科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨県立中央病院
2. プログラム責任者名：羽田 真朗
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：羽田 真朗
Tel : 055-253-7111 E-Mail : m-hada@ych.pref.yamanashi.jp
4. プログラム内容問い合わせ担当者名：石川 知
Tel : 055-253-7111 E-Mail : kenshu@ych.pref.yamanashi.jp
5. 問い合わせ可能日時：月～金 8：30～17：15（祝日除く）
6. プログラム説明会開催日：予定あり（詳細決まり次第ホームページに掲載します）

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 4名
2. 連携施設（県内）：①山梨大学医学部附属病院、②市立甲府病院、③山梨病院、④甲府共立病院、⑤韮崎市立病院、⑥山梨厚生病院、⑦笛吹中央病院、⑧飯富病院、⑨身延山病院、⑩富士吉田市立病院、⑪都留市立病院
3. 連携施設（県外）：①東京北医療センター
4. 地域医療研修方針：本研修プログラムでは山梨県立中央病院を基幹施設とし、地域の連携施設を中心に病院施設群を構成している。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となる。基幹施設における研修では、チーム医療におけるリーダーとしての経験を伴うものである。多彩な環境にある地域の連携施設での経験は、自立した外科医としての基本的な力を習得するうえで適している。以上の理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことを基本とする。プログラムでは指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮する。地域の連携施設では、Primary Care を含めて、基幹施設では経験することが少ない症例を経験することができる。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶ環境が提供され、複数のコンピテンシーの包含したものである。
5. ローテーション方針：年間計画については、専攻医のサブスペシャリティ選択および他の専攻医の研修スケジュールを調整し、個々の研修スケジュールを決定していく。また、サブスペシャリティ研修のための国内研修の機会を1～3か月の期間で設けることができる。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 当院は山梨県の基幹病院として急性期・高度医療を担う。山梨県民に的確で先端の医療を提供するとともに、その医療を支える外科医を育成することを目的としたプログラムである。消化器外科・心血管外科、呼吸器外科、小児外科、および乳腺外科のいずれかをサブスペシャリティとし、それに連動した研修スケジュールを設定することができる。一方、サブスペシャリティを特定しない外科全般の研修も可能とする。すべての領域において十分な症例数を経験することができ、学術的な研修も十分にできる体制をめざしている。

2. 科別紹介

＜肝胆膵外科＞肝胆膵高度技術認定医、内視鏡技術認定医を中心に、進行がんに対する拡大手術、また早期がんに対する腹腔鏡下手術を行っている。当院で高度技術認定医を育てられる体制を目指している。専攻医は腹腔鏡下胆嚢摘除術また肝部分切除などの術者を自立できるよう育成する。

＜食道・胃外科＞早期胃がん手術は腹腔鏡下手術が主流となり、本年度はダヴィンチ Xi によるロボット手術の導入を図る。専攻医は鏡視下手術を標準手術として実施する知識と経験を取得する。進行がんにおける開腹手術も多数の症例を経験できる。食道がんにおいても腹臥位鏡視下手術が導入され、低侵襲手術を学ぶことができるとともに、周術期の ICU 管理など外科医にとって重要な修練を積むことも可能である。

＜大腸外科＞大腸がんの手術ばかりでなく、腹膜炎・腸閉塞などの緊急手術も多い。大腸がんにおいても、腹腔鏡下手術が主流となり、直腸がんにおけるロボット手術の導入を図っている。専攻医は近未来の標準的手術となる鏡視下手術の経験を十分に積めるよう教育する。

＜乳腺外科＞症例数は多く週 4～5 例の手術症例があり専攻医は多数の症例を経験できる。また、当院独自に行っている部分切除後の乳房形成術（側胸部真皮脂肪弁）や乳房再建を行う症例も多く、乳腺外科において必要な技術はすべて習得可能である。

＜心血管外科＞中島雅人医師を中心に 4 名のスタッフと当院外科専攻医で構成される。十分な症例数を経験でき、高度な技能を研修可能である。当院での修練を終えたのちに、サブスペシャリティをどこで研修するか選択することができる。これまでに米国でのレジデントまた国立循環器センターに進んだ専修医もいる。

＜呼吸器外科＞後藤太一郎医師を中心に 3 名のスタッフ、当院外科専攻医で構成される。年間の手術数は 200 例を超え、内訳としては肺がん 160 例、気胸 40 例、縦隔腫瘍 20 例を実施している。また、臨床研究にも積極的に力をいれている。

＜小児外科＞大矢知昇医師および沼野医師が担当し、山梨大学との連携で山梨の小児の外科疾患を背負っている。小児ヘルニアの術者を多数経験できる。その他、小児の重傷疾患における術後管理の経験は貴重である。

[外科専門医取得後のサブスペシャリティ研修]

当院で専門領域の研修を継続する。また、山梨大学や他県の大学の医局に入局あるいは high volume center での専門領域の研修をするなど専攻医の希望にあわせた支援をする。専門領域の研修を終えた将来、当院外科で活躍してくれることを期待し、当院もまた、皆さんが働きたい病院であるよう発展していきたい。

【外科】

山梨県外科領域専門医研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：統括責任者 中島 博之（第2外科）
副統括責任者 市川 大輔（第1外科）
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：
 - 第1外科
Tel：055-273-7390
川井田 博充 E-Mail：kawaidah@yamanashi.ac.jp
河口 賀彦 E-Mail：ykawa@yamanashi.ac.jp
 - 第2外科
Tel：055-273-9682
榊原 賢士 E-Mail：gekasen@yamanashi.ac.jp
蓮田 憲夫 E-Mail：gekasen@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9：00～17：00（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年・8名
2. 連携施設（県内）：①国立甲府病院、②山梨県立中央病院、③市立甲府病院、④山梨病院、⑤甲府共立病院、⑥韮崎市立病院、⑦甲陽病院、⑧白根徳洲会病院、⑨勝沼病院、⑩加納岩総合病院、⑪山梨厚生病院、⑫塩山市民病院、⑬笛吹中央病院、⑭富士川病院、⑮富士吉田市立病院、⑯都留市立病院
3. 連携施設（県外）：①新潟大学医歯学総合病院、②新潟市民病院、③立川総合病院（新潟県）、④国立国際医療研究センター、⑤東京通信病院、⑥都立広尾病院、⑦国立災害医療センター、⑧東京医科大学八王子医療センター、⑨三菱京都病院、⑩京都第一赤十字病院、⑪島田市立総合医療センター（静岡県）、⑫竹田総合病院（福島県）、⑬長野県立こども病院、⑭東名厚木病院（神奈川県）、⑮島田総合病院（千葉県）、⑯JCHO 東京山手メディカルセンター、⑰済生会京都府病院、⑱京都第二赤十字病院、⑲JCHO 神戸中央病院

4. 地域医療研修方針：本プログラムは、山梨県内で手術指導可能な病院が網羅されており、本プログラムで研修を行うことで、山梨県の地域医療となります。
5. ローターション方針：研修病院は、研修プログラム委員会で決定します。
基本的には専攻医自身が所属する病院を中心に研修病院をローテーションします。この際、専攻医自身の希望と、円滑に専門医資格が取得できるよう配慮します。ただし、研修期間中に、基幹施設である山梨大学医学部附属病院は6ヶ月以上の研修を要します。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 山梨県内で、外科手術指導可能な病院は、ほぼ全て網羅されています。
2. 従来の大学医局への所属は必ずしも要しません。
県内の病院に所属、あるいは特定の病院や医局に所属しない状況でプログラムに参加し、外科専門医資格を習得することが可能です。
県内外の様々な地域で研修を行うことにより、最先端の医療を習得するとともに、地域の医療と関わりを持つこととなります。
3. 県内で経験出来ない症例は、県外の大病院との連携により、十分な経験が可能です。
また、先進医療にも常時対応可能となっています。
4. 新潟大学との連携により、地域医療間の連携を念頭に研修を行うことができます。
5. 基本領域資格取得後のサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科）の専門医資格習得を念頭に、研修を進めることができます。
(サブスペシャリティのプログラムは専門医機構で準備中です)
6. 本プログラムは、大学病院を基幹施設としており、臨床研究や基礎研究などの『リサーチマインド』の育成に関する指導体制も提供しています。プログラムの参加により、外科専門医に求められる重要な資質の1つである『リサーチマインド』も習得可能です。

【整形外科】

市立甲府病院整形外科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：市立甲府病院
2. プログラム責任者名：前川 慎吾
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：前川 慎吾
Tel : 055-244-1111
E-Mail : kmhorthop99@gmail.com
4. 問い合わせ可能日時：月～金 8:30～17:15（祝日を除く）
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：4年 ・ 各年次2名 計8名
2. 連携施設（県内）：①貢川整形外科病院、②身延山病院
3. 連携施設（県外）：①埼玉医科大学病院
4. 地域医療研修方針：本プログラムの研修施設群の1つである身延山病院は山梨県の峡南地域、そのなかでも中南部のへき地・過疎地域の中核病院となります。
そして、全ての専攻医は地域医療での病院と病院の連携、病院と診療所との連携などを通して地域医療を経験することができます。また、研修期間内に乳児の3ヶ月検診に参加します。
5. ローターション方針：本プログラムを構成する4つの研修連携病院は、地域枠や県の奨学生の専攻医にも十分な研修機会が提供できます。また、関節・スポーツ・脊椎・小児・手の外科などの専門研修も可能な特徴ある施設群を擁しており、専攻医の希望に応じて、取得単位を勘案しながらローテーションする機会を提供します。
また、連携する1型基幹病院である埼玉医科大学附属病院での6ヶ月間の研修において、リサーチマインドを学び、一般病院で経験することのできない多くの症例を経験する機会を提供します。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 市立甲府病院整形外科専門研修プログラムは到達目標を「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師」としています。
2. 整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。その中でも山梨県は、高齢化人口比率が全国平均より高い地域であり、地域医療で整形外科の果たす役割が非常に重要となります。このプログラムでは、高齢化社会に即した医療を中心に研修を行い、他科と連携したチーム医療・地域医療、特に包括的な医療を担えるような整形外科医師を目指します。
3. 甲府市及び周囲医療圏で、センターとしての役割を担う市立甲府病院は、埼玉医科大学整形外科と連携し、専門的な研修も出来るように配慮されています。
埼玉医科大学整形外科には、脊椎、股関節、肩・膝関節・スポーツ医学、上肢・手外科、足の外科、小児整形外科、リウマチ、骨代謝、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。連携施設は、スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、骨軟部腫瘍、小児整形、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった 20 以上におよぶ大学、施設、病院があり、当プログラムもそれら施設と連携し研修することにより、プライマリ・ケアから最先端の臨床・研究までを偏りなく学ぶことができます。多くの手術症例を経験・執刀し、研修終了後に自立した外科医として診療が出来ることを目指します。また、体育学系や各競技団体へ医師を派遣しており、希望により競技現場でスポーツ医学を学ぶ環境も提供できます。

【市立甲府病院週間予定】

	月	火	水	木	金	土
A.M.	外来・手術	朝 専攻医 症例検討会 外来・手術	外来・手術	外来・手術	外来・手術	
P.M.	手術	手術	手術	手術	手術	
		全体症例 検討会				

- * 専攻医は、基幹病院研修期間において、「外傷」・「脊椎」・「関節」・「手」の各専門診グループをローテーションし、外来・手術を指示の下に担当する。
- * 月に一回、症例発表のクリニカルカンファランスを行う。

【整形外科】

山梨県立中央病院整形外科地域専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨県立中央病院
2. プログラム責任者名：佐久間 陸友
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：佐久間 陸友
Tel : 055-253-7111 E-Mail : sakuma-bdnh@ych.pref.yamanashi.jp
4. プログラム内容問い合わせ担当者名：石川 知
Tel : 055-253-7111 E-Mail : kenshu@ych.pref.yamanashi.jp
5. 問い合わせ可能日時：月～金 8：30～17：15（祝日除く）
6. プログラム説明会開催日：予定あり（詳細決まり次第ホームページに掲載します）

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：4年 ・ 2名
2. 連携施設（県内）：①山梨大学医学部附属病院、②甲陽病院、③塩山市民病院、④富士川病院、⑤都留市立病院、⑥韮崎市立病院、⑦国立甲府病院、⑧富士吉田市立病院、⑨山梨厚生病院
3. 連携施設（県外）：①自治医科大学附属病院、②順天堂大学医学部附属順天堂医院
4. 地域医療研修方針：本プログラムの研修施設群の中核は、山梨県内医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院となります。したがって、すべての専攻医は連携する大学病院での研修以外は、山梨県内の医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院に勤務します。
5. ローターション方針：それぞれ連携する1型基幹病院の山梨大学医学部附属病院、自治医科大学附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院のいずれかで6カ月間の研修を行います。

医療機関	1年目	2年目	3年目	4年目
山梨県立中央病院	専攻医1			
	専攻医2			
山梨大学医学部附属病院		(専攻医2)	(専攻医1)	
自治医科大学附属病院		(専攻医2)	(専攻医1)	
順天堂大学医学部付属 順天堂医院		(専攻医2)	(専攻医1)	
北杜市立甲陽病院		専攻医2		
都留市立病院			専攻医2	専攻医1
塩山市民病院			専攻医1	
富士川病院		専攻医1		専攻医2

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

【地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師を目指して】

1. 山梨県立中央病院整形外科地域専門研修プログラムは到達目標を「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師」としています。
整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。その中でも山梨県は、高齢化人口比率の高い地域であり、地域医療で整形外科の果たす役割が非常に重要となります。このプログラムでは、高齢化社会に即した医療を中心に研修を行い、他科と連携したチーム医療・地域医療、特に包括的な医療を担えるような整形外科医師を目指します。
2. 山梨県の人口は約83万人（2016）で県土の約78%を森林が占めています。甲府盆地以外の地域は山間部に開かれた町がほとんどです。山梨県で唯一の救急医療センターを有した、山梨県立中央病院を中心に救急医療が行われています。そのため、甲府盆地以外の地区を含め、県内の病院は山梨県立中央病院と連携をとっています。また、山梨県立中央病院は山梨大学医学部整形外科、自治医科大学医学部整形外科、順天堂大学医学部整形外科・スポーツ診療科と連携し、専門的な研修も出来るように配慮されています。
3. その連携施設は、スポーツ医学、リハビリテーションなどの特色をもった施設、病院があり、当プログラムもそれら施設と連携し研修することにより、プライマリ・ケアから最先端の臨床・研究までを偏りなく学ぶことができます。多くの手術症例を経験・執刀し、研修終了後に自立した外科医として診療が出来ることを目指します。
4. 山梨県立中央病院整形外科地域専門研修プログラムは、専攻医の皆様に素晴らしい研修環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。また、山梨県の地域医療に貢献しようという志をもった専攻医の皆様にも、医師不足地域での地域医療研修義務と同時に多くの専門的な研修と研究の環境を提示できるプログラムとして環境を整えています。

【整形外科】

山梨大学整形外科専門研修プログラム

1 基本事項

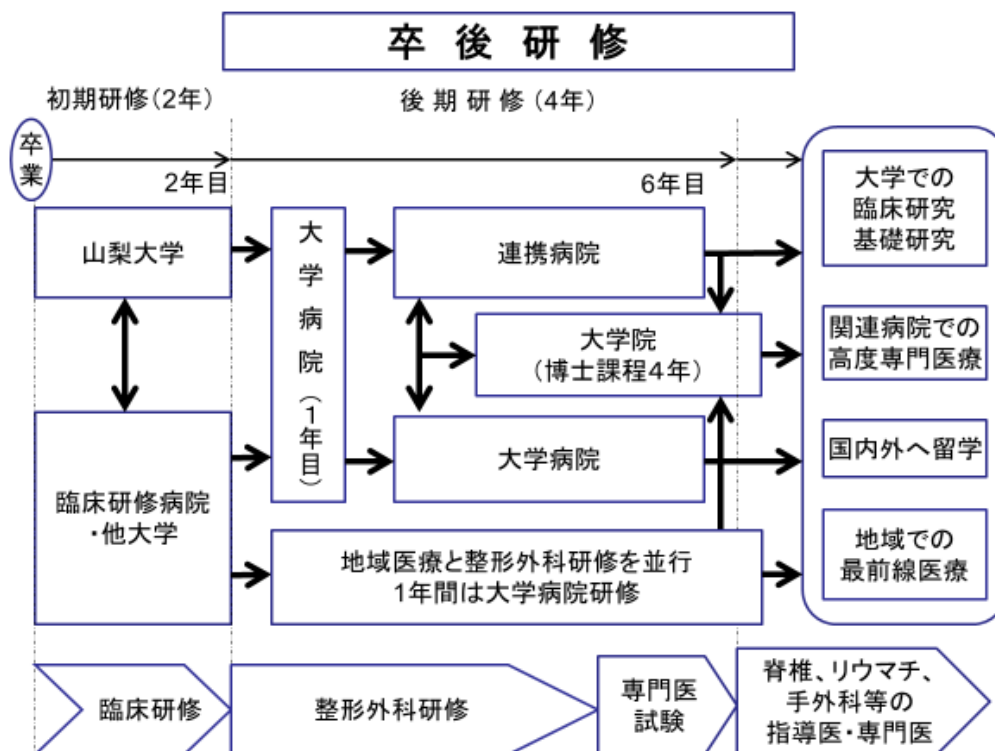
1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：波呂 浩孝
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：市川 二郎
Tel : 055-273-6768 E-Mail : jichi@sb4.so-net.ne.jp
4. 問い合わせ可能日時：個別対応（メールまたは電話で連絡してください）
5. プログラム説明会開催日：2022年6月11日（土）2022 整形外科ワークショップにて
その後の予定は山梨大学医学部整形外科ホームページで確認。
(<https://yamanashi-orthop.com/>)

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：4年・5名
2. 連携施設（県内）：①国立甲府病院、②山梨県立中央病院、③甲府共立病院、④あけぼの医療福祉センター、⑤韮崎市立病院、⑥甲陽病院、⑦山梨厚生病院、⑧塩山市民病院、⑨富士川病院、⑩富士吉田市立病院、⑪都留市立病院
3. 連携施設（県外）：なし
4. 地域医療研修方針：国立甲府病院、富士吉田市立病院、韮崎市立病院、塩山市民病院、甲陽病院、甲府共立病院で研修可能です。
上記施設では、通常の診療を行うことで地域医療を学びます。
5. ローテーション方針：本人の希望を踏まえて研修プログラム管理委員会で決定します。
1年目は原則、大学での研修となります。
詳細は 山梨大学医学部整形外科ホームページ「入局案内」の項目を参照。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 大学では脊椎、関節、腫瘍・手外科、スポーツ、リハビリテーション、小児のグループに大きく分かれており、協力病院とともに一般整形外科をはじめそれぞれ専門性を持って診療を行っている。サブスペシャリティに特化した教育として脊椎脊髄外科・リウマチ・手外科専門医の育成カリキュラムを有する。
2. 整形外科疾患の治療は約 90%が保存的加療とされている。そのため専攻医は①病態②保存的加療の知識と技術③手術適応④手術原理と手技⑤リハビリテーション総てについて習熟することを目標とする。
3. 手術では、原理と術式を理解し、研修者の習熟度・情熱・技量によって指導医の下で自ら術者として執刀する。研修先の施設は手術症例が多岐にわたり、1 病院で研修できる内容が豊富である。
4. 山梨県内の地域中核協力施設や地域医療を実践するクリニックなどが一体となって専攻医の指導を行う。
5. 研修は、個人の将来への希望を適宜に沿うようにオーダーメイドのプログラムを作成する。
6. リサーチマインドを身につけるために学会発表や論文作成の指導を行う。



【産婦人科】

山梨県統一産婦人科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：平田 修司
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：平田 修司
Tel : 055-273-9632
E-Mail : shirata@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9：00～17：00（祝日除く）メールは随時可。
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 5名
2. 連携施設（県内）：①国立甲府病院、②山梨県立中央病院、③市立甲府病院、④甲府共立病院、⑤山梨厚生病院、⑥富士吉田市立病院、⑦山梨赤十字病院
3. 連携施設（県外）：①東京大学医学部附属病院（東京都）、②諏訪中央病院（長野県）、③恵寿総合病院（石川県）、④東京北医療センター（東京都）、⑤済生会高岡病院（富山県）、⑥かみいち総合病院（富山県）
4. 地域医療研修方針：産婦人科専門医制度は、地域の産婦人科医療を守ることを念頭に置いている。専攻医のプログラムとしては、専攻医が地域中核病院・地域中小病院において外来診療、夜間当直、救急診療を行うことや、病診連携、病病連携を円滑に進められるようになれば、地域の産婦人科医療を守るための研修とつながると考えている。
5. ローターション方針：研修は、基幹施設である山梨大学医学部附属病院（以下、大学病院）ならびに山梨県立中央病院（以下、中央病院）、ならびに山梨県内もしくは東京都内の連携施設にて行い6か月～1年ごとのローテートを基本とする。このうち、大学病院1年間、中央病院6か月～1年間の専門研修は必須とし、残余の期間をその他の市中病院において専門研修を行う。大学病院および中央病院においては、婦人科腫瘍および合併症妊娠や胎児異常、産科救急などを中心に研修する。大学病院での研修の長所は、市中病院では、経験しにくいこれらの疾患を多数経験ができることである。したがって、3年間の専門研修期間のうち1年6か月～2年間は大学病院および中央病院で最重症度の患者への最新の標準治療を体験する。

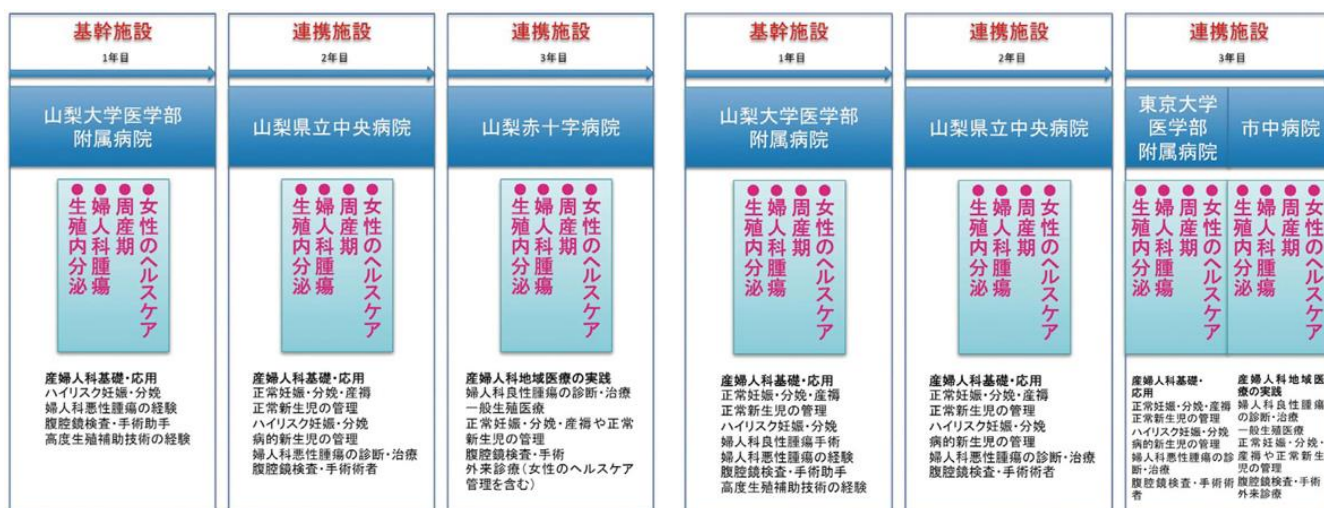
一方、市中病院においては、一般婦人科疾患、正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理を中心に研修する。外来診療および入院診療は治療方針の立案、実際の使用、退院まで、指導医の助言を得ながら自ら主体的に行う研修となる。

なお、以上の専門研修により、山梨県内をはじめとする地方の産婦人科の医療については熟知できるものの、都市部の産婦人科の状況について実感することができず、「井の中の蛙」状態になることが危惧される。そこで、山梨県産婦人科専門研修プログラムにおいては、3年間の専門研修期間のうち6か月間、東京大学医学部附属病院において研修することができる。この専門研修により広い視野をもった産婦人科医となることが期待される。

産婦人科専門医療人育成研修プログラムの概要

(例1)

(例2)



3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

産婦人科専門医制度は、産婦人科専門医として有すべき診療能力の水準と認定のプロセスを明示する制度である。そこには医師として必要な基本的診療能力（コアコンピテンシー）と産婦人科領域の専門的診療能力が含まれる。そして、産婦人科専門医制度は、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる産婦人科専門医を育成して、県民、国民の健康に資することを目的とする。とくに、本プログラムは、基幹施設である山梨大学医学部附属病院において高度な医療に携わり本邦の標準治療や先進的な医療を経験し学ぶとともに、地域医療を担う連携病院での研修を経て、山梨県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は産婦人科専門医として山梨県全域を支える人材の育成を行う理念を持つ。

【眼科】

山梨大学眼科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：柏木 賢治
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：柏木 賢治
Tel : 055-273-1111 (内線 2371)
E-Mail : kenjik@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～木 9：00～17：00、金 9：00～12：00
5. プログラム説明会開催日：随時開催予定

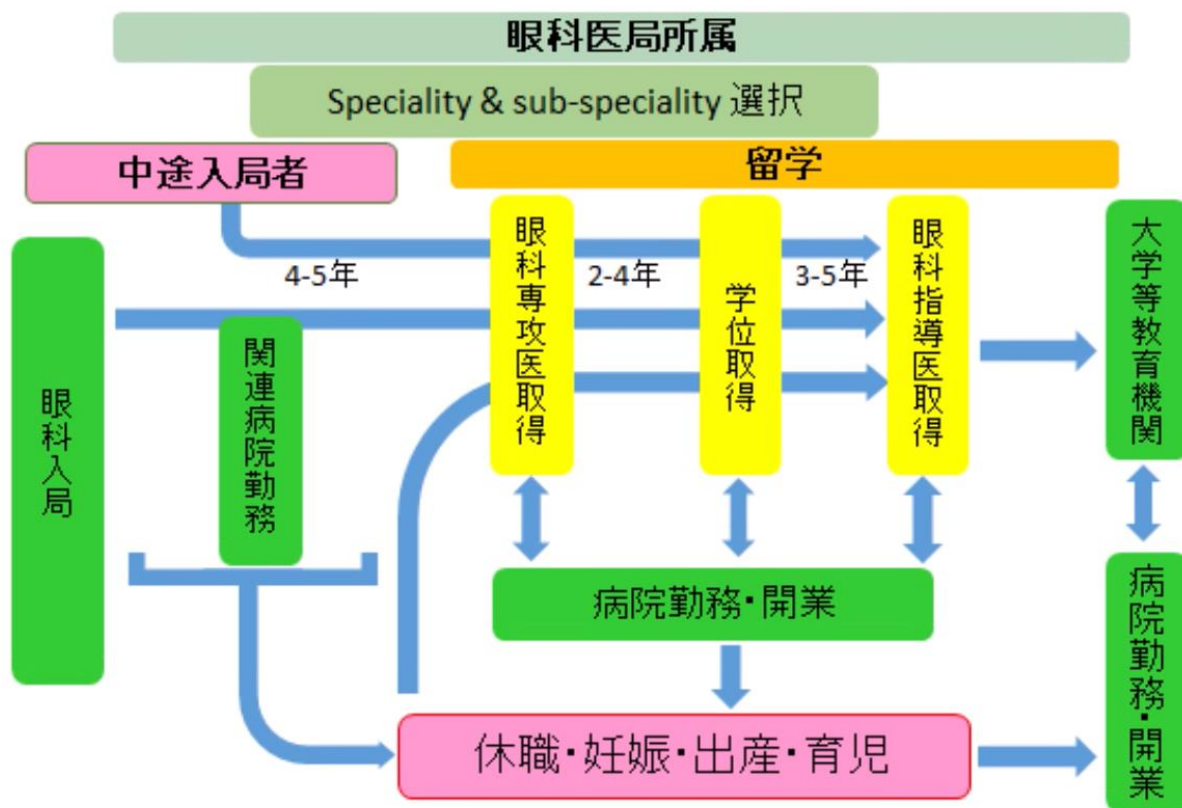
2 プログラム概要

1. 最短研修年数、募集人員：4年 ・ 各学年4名 (総計16名)
2. 連携施設(県内)：①国立甲府病院、②山梨県立中央病院、③市立甲府病院、④韮崎市立病院
⑤甲府共立病院
※関連施設：山梨厚生病院、笛吹中央病院、塩山市民病院
3. 山梨県外研修病院：①富士市立中央病院、②静岡市立清水病院、③岡谷市民病院、④飯田病院
4. 地域医療研修方針：初年度山梨大学医学部附属病院で研修を行って、比較的症例数が少なく専門性の高い疾患の習得を行う。その後に地域研修を行い実地医科として頻度の高い疾患、緊急対応が必要な疾患についての技術や知識の習得を行う。大学病院と地域医療機関が互いに持つ特徴に配慮して研修を行い、終了時には広範囲な眼科一般技量の習得を完了するとともに、各人においてサブスペシャリティの知識・技量の向上が進められる研修とする。
5. ローテーション方針：眼科は、専門性の高い領域であり、指導医が豊富な山梨大学医学部附属病院で初年度は研修を施行。1-2年を目安に、関連病院にて引き続いて研修を行っていただき、眼科実地医療の習得を目指す。その後研修後期においては、各人の希望に配慮しながら、山梨大学医学部附属病院もしくは複数の眼科診療体制が整っている山梨県内外の施設での研修を行い、眼科専門医習得を目指す。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 山梨県の地域中核病院として高度な眼科医療を提供している大学と地域の実地医科として多くの症例を抱えている関連病院において研修を行うことで広くかつ深い眼科医としての技量を習得することが可能
2. 大学病院では、多くの専門性の高い手術が優れた技量を持つ専門医の下で施行されており、濃密な教育体制が整っているため、専門性の高い手術習得が可能
3. 様々なキャリアパスを準備し、女性も働きやすい研修プログラムやその体制が整っている（下図）
4. 高い自己解決能力を持つ眼科医を教育するため、臨床・基礎研究を臨床実習とともに進めることが可能な体制が整っている。研修終了時に臨床サイエンティストとして独立可能となることを目標とした支援体制が整っている

女性医師などへの多彩なキャリアパスの提供



【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】

山梨大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：櫻井 大樹
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：林 亮
Tel : 055-273-6769
E-Mail : ahayashi@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：Tel は月～金 9:00～17:00（医局秘書対応）
E-Mail は随時
5. プログラム説明会開催日：未定（新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてから決めます。）

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：4年 ・ 5名/年
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②市立甲府病院、③富士吉田市立病院
3. 連携施設（県外）：①諏訪中央病院
4. 地域医療研修方針：市立甲府病院…甲府市周辺の地域医療を担当
富士吉田市立病院…郡内の地域医療を担当
諏訪中央病院…茅野市周辺の地域医療を担当
5. ローターション方針：初年度は基本、基幹病院（山梨大学医学部附属病院）で研修をおこなう。
基本プログラムとして基幹病院2年、連携病院2年ローテーションと基幹病院3年、
連携病院1年のローテーションがあり、相談しながら決定していく。

1年目 2年目 3年目 4年目 5年目 6年目 7年目 8年目

A 基本プログラム

I	基幹	連携施設						
II	基幹	連携施設	基幹					
III	基幹	連携施設	基幹					
IV	基幹	連携施設	基幹					

大学院を選択するローテーション、産休育休を利用するローテーションなどオプションも用意している。

1年目 2年目 3年目 4年目 5年目 6年目 7年目 8年目

B オプションプログラム

大学院	基幹	連携施設	大学院	連携施設
休職	基幹	連携施設	産休等の休職	基幹

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 山梨県内全ての医療圏を網羅した中核病院での研修

専門研修基幹施設（山梨大学医学部附属病院）と県内に広がる連携 3 施設（山梨県立中央病院、市立甲府病院、富士吉田市立病院）は、県内の中核病院であり、これらの施設に県内の耳鼻咽喉科領域全ての疾患が集約するため、県内全域の医療圏を網羅した研修をおこなうことができる。

2. 各分野に精通した指導医・専門医を有する

耳鼻咽喉科には、耳科、鼻科、頭頸部外科、平衡、咽喉頭、音声、嚥下、睡眠、アレルギーといった専門分野があるが、本プログラムに参加している施設には、その全専門分野に精通した指導医・専門医を有している。また専門研修基幹施設には、腫瘍外来・鼻副鼻腔外来（嗅覚外来）・中耳外来・めまい難聴耳鳴外来・アレルギー外来・音声外来・睡眠外来といった専門外来を設置しており、専門研修連携施設にもそれぞれの専門を活かした指導をおこなえる指導医・専門医を配置している。したがって、どの分野にも偏りなく広く深い医療を学ぶことができる。

3. 少数精鋭で濃密な研修

県内全ての医療機関から紹介されてくるバラエティーに富んだ症例を、指導医・専門医と専攻医の垣根をなくし、カンファレンスなどで一例ずつ詳細に検討しながら診断・治療を行う環境を提供し、濃密な研修をおこなうことができる。この環境は、これまでの地方大学病院がおかれてきた状況でも、都市部の症例数が多い大学病院に負けないような専門医を輩出するために長年努力や工夫をおこなってきた成果と考えている。また、近年の専門医取得者の数をみても、平成 28 年が 1 名/1 名、平成 27 年が 5 名/5 名、平成 26 年が 2 名/2 名、平成 25 年が 2 名/2 名と、これまでの体制であっても 1 学年最大 5 名が同時に研修を行っても全員が試験を合格し認定されており、結果もしっかりでている。

4. 学術面でのサポート体制

基礎研究指導、国内外への留学、大学院での研究の支援もおこなっており、そのオプションプログラムも設定している。基礎講座と連携をとりながら研究指導をおこなえる環境を作っている。また、大学の枠を超え、国内の多研究室との共同研究や、海外への留学をおこなえる体制をとっている。

【泌尿器科】

山梨泌尿器科専門研修プログラム


1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：三井 貴彦
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：
Tel：055-273-9643
吉良 聡（医局長） E-Mail：skira@yamanashi.ac.jp
澤田 智史（教育担当） E-Mail：nsawada@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9：00～17：00（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：応相談

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：4年・5名
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②市立甲府病院、③山梨厚生病院、④加納岩総合病院、
⑤富士吉田市立病院、⑥峡南医療センター市川三郷病院、
⑦甲府昭和腎クリニック
※協力施設：甲府共立病院、韮崎市立病院
3. 連携施設（県外）：①長久保病院、②東海大学八王子病院、③自治医科大学附属病院、
④静岡医療センター
※協力施設：諏訪中央病院
4. 地域医療研修方針：泌尿器科専門医制度は、医の倫理に基づいた医療の実践を体得し、高度の泌尿器科専門知識と技能とともに地域医療にも対応できる総合的診療に必要な基本的臨床能力を修得した泌尿器科専門医の育成を図り、国民の健康増進、医療の向上に貢献することを目的とする。
連携病院では施設それぞれの特徴を生かし、専門研修プログラムに掲げた目標に沿って泌尿器科領域専門研修を行う。
大学に在籍中は中小病院への外来診療の派遣を行っている。
5. ローターション方針：専攻医4年目までに大学病院および連携病院での1-2年ごとの研修を原則とするが、大学院に進学する場合には適宜相談により変更することができる。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 臨床症例経験については、決められた症例数はないが、日常診療でよく遭遇する疾患について複数例以上の経験ができるようすすめており、4 年目までの泌尿器科専門医の取得を第一目標としている。
また、その後の臨床資格として、日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、日本排尿機能学会専門医、日本臨床腎移植学会腎移植認定医、日本透析医学会専門医、日本腎臓学会認定専門医などの取得をできるようにすすめている。そのため、学会発表や論文の投稿の指導も並行して進めることとしている。
2. 泌尿器科は外科系診療科の中で内視鏡手術を得意とする診療科であり、経尿道的手術、腹腔鏡手術を数多く行っている。特に、da Vinci を用いたロボット支援腹腔鏡下手術については、現在前立腺がん、腎がん、膀胱がん、副腎腫瘍に対する摘除術に加えて、腎盂形成術や仙骨脛固定術に対しても保険適用となっていることから、後期研修の早い段階から術者及び助手として携わってもらおう方針としている。
3. 当教室はリサーチマインドをもった泌尿器外科医を育てることを目標としており、希望があれば大学院への入学も専門医を取得する前から可能である。
4. 超高齢社会となっている日本において泌尿器科疾患は増加している。その一方で、本邦における泌尿器科専門医の人数は十分ではなく、その必要性は高まっている。
5. 泌尿器科疾患に対する診断的アプローチから始まり、内科的治療に加えて外科的治療を行うことができるため、総合的な研修を受けることができる。
6. 泌尿器疾患は、腎・尿路における悪性腫瘍ばかりでなく、小児疾患、女性泌尿器科疾患、内分泌疾患、腎疾患など多岐にわたることから、幅広い研修を受けることができる。
7. 泌尿器科では、泌尿器外科医、泌尿器科学研究者、透析医、開業医など、さまざまな進路がある。本プログラムはその将来的な進路の多様性を重んじつつも、家庭の事情などについては最大限の考慮を検討しており、ライフイベント（出産・育児）についても専門医を取得できるように、当教室はもちろん日本泌尿器科学会をあげて最大限の配慮をしている。

【脳神経外科】

脳神経外科専門研修 山梨大学医学部プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：木内 博之
3. プログラム内容問い合わせ担当医：吉岡 秀幸
Tel : 055-273-6786
E-Mail : hidey@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9:00～18:00（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：4年・5名
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②甲府城南病院、③白根徳州会病院、④甲府脳神経外科病院
※関連施設：加納岩総合病院、山梨厚生病院、都留市立病院、上野原市立病院、
韮崎市立病院、市立甲府病院
3. 連携施設（県外）：①関東脳神経外科病院（埼玉）、②西島病院（静岡）
※関連施設：東北大学（仙台）、北里大学医学部附属病院（神奈川）、水戸医療センター（茨城）、静岡県立総合病院（静岡）、沼津市立病院（静岡）、静岡医療センター（静岡）、共立蒲原総合病院（静岡）、静岡県立こども病院（静岡）、国立精神・神経医療研究センター（東京）、藤枝平成記念病院（静岡）、諏訪中央病院（長野）、総合東京病院（東京）、国立成育医療研究センター（東京）、新百合ヶ丘総合病院（神奈川）、昭和大学医学部附属病院（東京）、昭和大学藤が丘病院（神奈川）
4. 地域医療研修方針：県立中央病院をはじめとする地域中核病院での研修とその他関連施設において中小病院での研修により脳卒中をはじめとした疾患を通じ、脳神経外科における地域医療の重要性を理解し、患者中心の医療が実践できる基本的能力を習得する。
5. ローテーション方針：脳神経外科学会で指定されている研修方針に沿って偏りのない脳神経外科全領域の疾患を学べるようにする。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 日本脳神経外科学会の専門医制度は麻酔科に次いで 2 番目に古く、すでに 30 年間続いている最も体制の整った専門医制度の一つです。
2. 脳神経外科診療の対象は、国民病とも言える脳卒中（脳血管性障害）をはじめ、脳腫瘍や頭部外傷、脊髄脊椎疾患、機能的外科など多岐にわたります。
3. 当プログラムでは、各分野のエキスパートが揃った基幹施設や症例豊富な研修・関連施設でのシステムティックな研修を通じ、無理なく専門医資格が取得可能です。高齢化に伴いますます需要が増している血管内治療や、脊椎変性疾患に関する専門的研修も受けることができ、将来のサブスペシャリティ専門医取得にむけても十分な指導体制が整っています。
4. 屋根瓦方式による指導のもと、症例を通じて専門知識や技術を習得して行きます。特に、専攻医がプレゼンテーションを行う症例カンファレンスや、術前術後カンファレンスでは、入念な準備のもと詳細な検討を行うため、自然に実力が備わります。さらに、多くの手術に携わり、早い段階から術者としての経験を積むことが可能です。また、学会発表や論文発表の指導体制も充実しており、専攻医も多数の英語論文を発表しています。大学院での基礎研究や、山梨県の特長を生かした地域医療の研修など多彩な選択肢も当プログラムの特徴です。
5. 山梨大学医学部附属病院では 2015 年末に新棟が開設となり、最新の術中 3T MRI 室やハイブリッド手術室の運用が始まりました。最新の血管内手術手技や低侵襲な内視鏡手術も含めて、世界でも有数の最先端手術治療の習得が可能です。

【放射線科】

山梨大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：大西 洋
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：小宮山 貴史（医局長）
Tel : 055-273-9579
E-Mail : takafumi@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9:00～17:00（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：お問い合わせください。

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 6名
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②市立甲府病院
※関連施設：山梨県厚生連健康管理センター、山梨 PET 画像診断クリニック、山梨厚生病院、富士吉田市立病院
3. 連携施設（県外）：①静岡県立総合病院、②相澤病院、③静岡市立清水病院、④国立がん研究センター中央病院、⑤帝京大学医学部附属病院
※関連施設：諏訪中央病院
4. 地域医療研修方針：専門研修施設群では、研修施設それぞれの特徴を生かし、専門研修カリキュラムに掲げられた目標に則って放射線科領域専門研修を行います。
5. ローターション方針：専攻医3年目までに原則1年間は、連携病院での研修とします。
研修先の決定は、プログラム開始時に同期生との相談により決める方針です。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 本プログラムは規定年数での放射線専門医試験（現在の1次試験）通過を念頭に置き、放射線診断と放射線治療の両者を包括的かつ効率的に研修できるように構成されている。
2. 放射線科医は将来、診断医または治療医のどちらかを選択することになっており、その両方を専攻することはできない。そのため、本プログラムではプログラム開始時から研修者の希望に応じて診断重点コースと治療重点コースを選ぶことができるようになっている。
3. 申し出があれば、年度の変わり目で別コースに乗り換えることも可能である。
4. 山梨大学放射線医学教室はリサーチマインドを持った放射線科医の育成を心がけている。そのため、通常は年間1回以上の学会発表、2回以上の学会参加、および2年に1度以上の海外学会での発表を奨励している。ただし研究への希望がない場合はこの限りではない。
5. 当プログラムでは多様性を大切にしている。そのため、研究志向の有無、研修病院の志向（大学病院か市中病院か）、さらには家庭の事情には個別に配慮する。特に、ライフイベント（出産・育児）が重なっても、研修期間を延長せずに専門医を取得できるよう最大限の配慮をしている。

【麻酔科】

山梨大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：松川 隆
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：
Tel：055-273-9690
松川 隆 E-Mail：takashim@yamanashi.ac.jp
小口 健史 E-Mail：toguchi@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9：30～17：30（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：希望者があれば随時開催

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：4年 ・ 7名前後
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②市立甲府病院、③山梨厚生病院、④富士吉田市立病院
3. 連携施設（県外）：①静岡県立こども病院
4. 地域医療研修方針：地域医療の維持のため、地域医療支援病院である専門研修連携施設を研修期間に加えることができる。専門研修連携施設で地域医療・地域連携を経験できるため専門研修指導医による指導体制は十分である。山梨県内の地域医療支援病院として山梨県立中央病院、県外の地域医療支援病院として静岡県立こども病院を専門研修連携施設に加えている。
5. ローターション方針：
 - 研修のうち少なくとも1年間は、原則として山梨大学医学部附属病院で研修を行う。
 - 専門研修連携施設である山梨県立中央病院、市立甲府病院、富士吉田市立病院、静岡県立こども病院のいずれかの病院において、原則として1年間は研修を行う。
 - 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
 - すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション、心臓血管外科を中心に学びたい者へのローテーションなど、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である緩和医療、ペインクリニック、集中治療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし高度医療を安全に提供する役割を担う。
2. 本研修プログラムでは、山梨県の麻酔科専門研修プログラムとして、専門研修基幹施設である山梨大学医学部附属病院のほか、山梨県内の4つの主要病院と山梨県外の専門病院・地域医療支援病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。
3. 山梨大学医学部附属病院・山梨県立中央病院では、通常の麻酔症例に加えて心臓血管外科手術麻酔・小児麻酔・帝王切開術麻酔・胸部外科麻酔・脳神経外科麻酔などの多くの特殊症例を経験でき、高度で幅広い臨床能力を獲得出来る。さらに、静岡県立こども病院での研修を加えることで、多くの新生児麻酔や小児心臓血管外科麻酔の経験を積むことが可能になる。また、本プログラムでは県内外の地域医療支援病院も専門研修連携施設としていることから、自身の臨床能力を高めながら地域医療の維持に貢献することが可能である。
4. 週間予定は研修病院によって異なるが、基本的に月曜日～金曜日は朝に定期的な症例検討会・抄読会・勉強会を行った後に担当患者の麻酔を行い、その後に術前診察・術後診察を行う。大学病院においては、金曜日の夕方に麻酔科・関連診療科・ME・看護師で重症症例の検討会を行う。また、土曜日は翌週の症例検討会を行う。
5. 県内外から専門家を招き、山梨麻酔懇話会、緩和・疼痛管理研究会、甲信低侵襲モニタリングフォーラム、山梨周術期循環管理研究会、山梨麻酔管理研究会などの講演会を開催して、プログラム全体での学習機会・専門研修指導医の研修を定期的に設ける。
6. 日本麻酔科学会年次学術集会、日本麻酔科学会支部学術集会などへ参加することで計画的に学習の機会を得て、更に学会発表も指導医と共に積極的に行いリサーチマインドを養成する。
7. 麻酔科教室内に整備している教材や、図書館の文献検索システムを用いて、麻酔計画の立案・症例検討・学会発表などを行うことで、自己学習の習慣を身につける。
8. 麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

【病理診断科】

風林火山 病理専門研修プログラム（山梨）

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：近藤 哲夫
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：近藤 哲夫
Tel : 055-273-9529
E-Mail : ktetsuo@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：随時
5. プログラム説明会開催日：随時

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 2名
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②市立甲府病院、③甲府共立病院、
④峡南医療センター富士川病院、⑤NHO 甲府病院、⑥富士吉田市立病院
3. 連携施設（県外）：①富士宮市立病院、②東京都健康長寿医療センター、③がん研究会有明病院
4. 地域医療研修方針：本プログラムは山梨大学医学部附属病院を基幹施設とし、山梨県内外の連携施設と併せて3年間の専門研修を行い、病理専門医資格の取得を目指します。本プログラムで経験できる症例は豊富で、専門医受験に必要な病理解剖数を確保しています。プログラム期間中に大学院進学も可です。
5. ローテーション方針：
1-2年目：山梨大学医学部附属病院、連携施設で研修を行います。病理診断科・病理部の基本業務（検体受付、肉眼観察、切出作業、組織標本作製、報告書・標本の管理）、よくある疾患（common disease）の組織診と細胞診、迅速診断、外部コンサルテーション、病理解剖とCPC、病理診断に関連する法令・保険診療・医療安全・精度管理の知識と技術を習得します。定期、不定期に開催される検鏡会、論文抄読会、合同カンファレンス、講演会に参加します。
3年目：山梨大学医学部附属病院及び、連携施設で研修を行います。病理専門医専攻医マニュアル（病理学会）に定められた知識と技術を習得し、稀な疾患を含めた様々な疾患の診断経験を積みます。3年間で術中迅速診断を50症例以上、病理解剖30症例以上を自ら行い、3年目の期間には死体解剖資格を厚生労働省に申請します。また病理学会が定めた剖検講習会、細胞診講習会、病理診断に関する講習会、分子病理診断に関する講習会を受講します。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

我々は信頼される病理医を育成します

1. 経験豊かな笑顔の指導医陣：

様々な臓器、領域のサブスペシャリティを究めた病理専門医が専攻医研修の指導に当たります。

2. 豊富な症例数：

本専門研修プログラムは全体で約 23,000 件/年の組織診、27,000 件/年の細胞診、1,200 件/年の迅速診、60 件/年の病理解剖があり病理専門医として必要な多様な症例を経験できます。

3. 研修環境の充実：

山梨大学医学部附属病院及び連携施設では病理に関連する様々なカンファレンス（検鏡会、論文抄読会、講演会など）が用意されています。また病理診断と研修に必要な資料（癌取り扱い規約、WHO 分類、専門書籍、専門雑誌）は常にアップデートした状態で揃えられており、最先端の情報で病理診断ができる環境にあります。

4. 地域医療への貢献：

山梨県内の病理医は不足しています。県内医療機関の求めに応じて病理解剖、病理診断業務に専攻医を適宜派遣し、地域医療を支えています。

5. 学術活動の奨励：

研修期間中の学術活動を推奨しています。3 年の間に学会発表（筆頭）を 2 回以上、論文発表（筆頭）1 本以上の指導を行います。



【臨床検査】

山梨大学医学部附属病院 臨床検査専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：井上 克枝
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：
井上 克枝 Tel：055-273-6770 E-Mail：katsuei@yamanashi.ac.jp
高野 勝弘 Tel：055-273-1111 内 6154 E-Mail：takanok@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：火～金
5. プログラム説明会開催日：予定なし。（随時お問い合わせください。）

2 プログラム概要

臨床検査専門医は、臨床検査（血液や尿などを対象とする検体検査と心電図などの人体・生理機能検査）に関する専門的医学知識と技能を有し、臨床検査が安全かつ適切に実施できるよう管理し、医療上
有用な検査所見を医師・患者に提供する医師である。そのため、本プログラムは臨床検査室のマネージメントを最適に指揮することができ、臨床検査が適切に行われ、検査結果の質、臨床的妥当性、有用性を保証する能力を習得するためのカリキュラムとなっている。

1. 最短研修年数・募集人員：3年（内科認定医などを持っている場合）・1名
2. 連携施設（県内）：なし（今後、追加予定）
3. 連携施設（県外）：なし
4. 地域医療研修方針：基幹施設では専門性の高い検査を経験する。地域では、地域の衛生検査所の精度管理や臨床検査振興活動を経験する。
5. ローテーション方針：なし

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 山梨大学臨床検査医学講座は血栓止血学（特に血小板）を専門としています。血栓止血異常は、血液内科、産婦人科、救急部、外科、小児科など、どの診療科でも遭遇する疾患ですが、とっつきにくい分野でもあります。臨床検査医学講座では、血液内科のご協力の下、山梨県で唯一の止血凝固コンサルテーション外来を行っており、血栓止血関連検査だけでなく、血栓止血異常の治療についても学べます。
2. 当講座では血小板活性化受容体 CLEC-2 を発見し、血小板が胎生期のリンパ管発生など、血栓止血以外の役割を持つことを報告するなど、血小板生物学に新たな展開をもたらしました。血小板と癌、血小板と発生、血小板と敗血症などの基礎研究とともに、創薬を視野に入れた研究も行っています。
3. 入院病床をもたないため、比較的研究の時間をとりやすいプログラムです。大学院に入学して、学位を取得することも可能です（4年間）。
4. 業務を自ら調節することが可能なため、子育てや介護などライフイベント中の医師でも学びやすいプログラムです。プログラム責任者自身も未就学児を含む子育て中です。ただし、ライフイベント中ではない医師に比較して、圧倒的に大きなハンデを抱えていることを自覚して、自らを律して研鑽をつむ姿勢は必要であると考えます。
5. 基礎と臨床が混在する講座です。スタッフは M.D.が4名、Ph.D.が3名在籍しており、臨床だけでなく、基礎研究においても本格的な指導が受けられます。

【救急科】

山梨県立中央病院救急科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨県立中央病院
2. プログラム責任者名：岩瀬 史明
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：岩瀬 史明
Tel：055-253-7111 E-Mail：fiwase@ych.pref.yamanashi.jp
4. プログラム内容問い合わせ担当者名：石川 知
Tel：055-253-7111 E-Mail：kenshu@ych.pref.yamanashi.jp
5. 問い合わせ可能日時：月～金 8：30～17：15（祝日除く）
6. プログラム説明会開催日：予定あり（詳細決まり次第ホームページに掲載します）

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 5名
2. 連携施設（県内）：①山梨大学医学部附属病院、②市立甲府病院、③甲府共立病院、④塩川病院、⑤山梨市立牧丘病院、⑥飯富病院、⑦身延山病院、⑧都留市立病院、⑨上野原市立病院、⑩山梨赤十字病院、⑪富士川病院、⑫富士吉田市立病院、⑬甲陽病院
3. 連携施設（県外）：①日本医科大学付属病院、②日本医科大学千葉北総病院、③日本医科大学武蔵小杉病院、④武蔵野赤十字病院、⑤沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院、⑥長野赤十字病院、⑦諏訪中央病院、⑧済生会横浜市東部病院
4. 地域医療研修方針：専攻医のみなさんは、原則として研修期間中に3か月以上、研修基幹施設以外の連携施設で研修し、周辺の医療施設との病診・病病連携の実際を経験していただきます。また、消防組織との事後検証委員会への参加や指導医のもとでの特定行為指示により、地域におけるメディカルコントロール活動に参加していただきます。
5. ローテーション方針：研修領域ごとの研修期間は、救急室での救急診療(クリティカルケア含む)18か月間、集中治療部門12か月間、小児救急3か月間、地域での救急診療3か月間としています。

年度 \ 月	4-6	7-9	10-12	1-3
1年目	山梨県立中央病院救命センター			
2年目	山梨県立中央病院救命センター	院内希望科研修	他病院研修(A群病院)	
3年目	地域医療研修(B群病院)	山梨県立中央病院救命センター		

A 群病院（集中治療認定施設あり病院）

日本医科大学付属病院、日本医科大学千葉北総病院、日本医科大学武蔵小杉病院、武蔵野赤十字病院、山梨大学医学部附属病院、医療法人沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院、済生会横浜市東部病院

B 群病院（地域医療病院）

市立甲府病院、甲府共立病院、北杜市立塩川病院、上野原市立病院、都留市立病院、組合立飯富病院、身延山病院、山梨市立牧丘病院、諏訪中央病院、山梨赤十字病院、峡南医療センター富士川病院、富士吉田市立病院、北杜市立甲陽病院

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 当院は、高度救命救急センターを有しており、県内で唯一の救命救急センターとして重症患者を山梨県内全域より集約しており、年間 2000 例程度の 3 次救急患者を経験できます。
2. 救急科指導医指定施設、救急科専門医指定施設、外傷専門医研修施設、熱傷専門医認定研修施設、航空医療学会指定施設、基幹災害拠点病院の指定を受けています。
3. ドクターヘリ、ドクターカーを運用し、プレホスピタルケアにも力を入れており、両者あわせて年間 1000 件以上の出勤があります。
4. 救急科専用集中治療室と一般病棟病床を有し、初診→集中治療→一般病棟管理→退院まで一貫した治療を経験することができます。
5. 集中治療；基本的考え方から、血液浄化療法、経皮的心肺補助法(PCPS)、大動脈バルーンポンピング(IABP)などを習得できるようになります。集中治療専門医研修施設ではありませんが、連携病院をローテーションすることで、サブスペシャリティ領域への移行も可能です。
6. ER；地域の二次救急輪番制に参加しており、一次・二次救急外来業務を経験できます。
7. 重症外傷、熱傷や重症内因疾患の外科的治療を院内各科と連携しながら、救急科内で経験できます。
8. 外傷に対する IVR だけでなく、内因疾患の血管内治療や脳梗塞に対する血栓回収治療も経験できます。
9. ダブルボードを考慮したスプリット研修にも柔軟に対応します。

【救急科】

山梨大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：森口 武史
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：後藤 順子
Tel : 055-273-9812
E-Mail : junkog@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：E-Mail は随時 電話問い合わせは月～金 午後
5. プログラム説明会開催日：随時

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 3名
2. 連携施設（県内）：①山梨県立中央病院、②市立甲府病院、③甲府共立病院、④白根徳州会病院
3. 連携施設（県外）：①成田赤十字病院、②東京女子医科大学八千代医療センター、③東海大学医学部附属病院
4. 地域医療研修方針：
(ア) 専門研修基幹施設から地域の救急医療機関である白根徳州会病院、甲府共立病院、もしくは市立甲府病院に出向いて救急診療を行い、自立して責任をもった医師として行動することを学ぶとともに、地域医療の実状と求められる医療について学びます。3か月以上経験することを原則としています。
(イ) 地域のメディカルコントロール協議会に参加し、あるいは消防本部に出向いて、事後検証などを通して病院前救護の実状について学びます。
5. ローターション方針：研修期間は、本大学病院における重症救急症例の病院前診療・初期診療・集中治療診療部門 12 か月（クリティカルケア・ドクターカー研修・災害医療対応施設研修を含む）、連携機関における ER 診療部門 12 か月（特殊災害医療対応施設研修を含む）に加えて、初期臨床研修における研修領域、あるいは希望領域に応じて外科・整形外科・脳外科・放射線科・血液透析・形成外科・麻酔科・循環器内科・小児科のいずれかもしくは複数の組み合わせで 12 か月としています。
総括すると下記 4 つのモジュールが研修プログラムの基本になります。
 - クリティカルケア（基幹研修施設 6 か月以上を含む）12 か月
 - ER 研修 12 か月
 - 初期臨床研修経験と専門医取得以降の修練希望領域に基づいた他科研修 6 か月
 - クリティカルケアおよび ER 研修の組み合わせ 6 ヶ月

ER、ICU、病院前救護・災害医療等は年次にかかわらず弾力的に研修します。必須項目を中心に、知識・技能の年次毎のコンピテンシーの到達目標（例 A：指導医を手伝える、B：チームの一員として行動できる、C：チームを率いることができる）を定めています。研修施設群の中で研修基幹施設および研修連携施設はどのような組合せと順番でローテーションしても、最終的には指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分に配慮いたします。研修の順序、期間等については、専攻医の皆さんを中心に考え、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、研修基幹施設の研修プログラム管理委員会が見直して、必要があれば修正させていただきます。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 我々山梨大学医学部附属病院の救急部は、地域の1次および2次応需救急症例のEmergency & Primary Careと、院内および地域で発生した重症症例の集中治療室(ICU)での診療、いわゆるCritical Careを主たる診療の両輪としています。急患対応、プライマリ・ケア、急変対応などを高い質で実施できるGeneralistとして、また高度に専門性が必要な重症患者を診療するCritical care physicianとしてトップレベルの医師に成長できる環境を準備しています。COVID-19の世界的流行で注目されている、重症呼吸不全患者に対する人工呼吸器管理や、ECMO（体外式膜型人工肺）のエキスパートとして活躍できる診療科です。
2. 救急科専門医の社会的責務は、医の倫理に基づき、急病、外傷、中毒など疾病の種類にかかわらず、救急搬送患者を中心に、速やかに受け入れて初期診療に当たり、必要に応じて適切な診療科の専門医と連携して、迅速かつ安全に診断・治療を進めることにあります。さらに、救急搬送および病院連携の維持・発展に関与することにより、地域全体の救急医療の安全確保の中核を担うことが使命です。本研修プログラムを修了することにより、このような社会的責務を果たすことができる救急科専門医となる資格が得られます。
3. 大学病院のプログラムですので、医師として必要な最先端の医学・医療を理解する、及び科学的思考法を体得する経験を積むことができます。そのため臨床研究や基礎研究へも積極的に関わっていただきます。専攻医のみなさんは研修期間中に筆頭者として少なくとも1回の専門医機構研修委員会が認める救急科領域の学会で発表を行えるように共同発表者として指導いたします。また、筆頭者として少なくとも1編の論文発表を行えるように共著者として指導いたします。
4. 院内アンケートでも、指導医から研修医までスタッフ全員が自由な発言し、治療方針決定のプロセスに参画できるオープンな環境が高く評価されている診療科だと自負しています。旧態然とした勤務体制や、従来の徒弟制度のような研修環境ではない、良い環境、良い指導体制、良い待遇で仕事を続けていける次世代の救急集中治療の形を作り上げてきました。この研修を通じて優れた臨床医となるのはもちろんのこと、未来の救急医の理想像を具現化してゆく我々の仲間としても存分に活躍してもらえればと思います。

【形成外科】

山梨大学形成外科研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：百澤 明
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：塩川 一郎
Tel : 055-273-9653
E-Mail : ishiokawa@yahoo.co.jp
4. 問い合わせ可能日時：
Tel…月～金 9:00～17:00（祝日除く）〈秘書・医局員対応〉
E-Mail…随時
5. プログラム説明会開催日：予定なし

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：4年・2名
2. 連携施設（県内）：①甲府昭和形成外科クリニック
3. 連携施設（県外）：①杏林大学医学部附属病院
4. 地域医療研修方針：当科では、地域連携施設として甲府昭和形成外科クリニックを擁し、地域での外来保険診療から、適正価格を介した美容外科・レーザー治療、外来日帰り手術を多数診療している。大学病院では経験することの困難なこれらの症例を、適切な時期に経験することができ、幅広い形成外科・美容外科の知識・手技を会得することが可能である。
5. ローターション方針：初年度は原則基幹施設（山梨大学医学部附属病院）で研修を行う。基幹施設2年、連携施設2年ローテーションを基本と考えているが、各施設の異動年次・期間については個々の専攻医の研修状況を勘案しながら決定していく。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 県内唯一の医育機関である当院で、診療科として希少な形成外科専攻医を募集し、育んでいくことは、県内医療の充実、地域医療の貢献に大いに役立つと考えられる。
2. 全国的にも数少ない性同一性障害（GID）の外科的治療を行う公的施設である当院は、条件付き健康保険適用になったこともあり、注目されている。当院で研修を行うことは、同疾患の理解・次世代への診療の充実を図るうえで非常に有用と考える。
3. 県唯一の特定機能病院である当院では頭頸部外科・耳鼻科とのチーム医療により、頭頸部腫瘍切除後の再建手術を行っている。形成外科の重要な手技であるマイクロサージャリーの習得が十分に可能である。
4. 他臓器癌の治療においても、乳腺外科、皮膚科、胸部・腹部の外科系各科とのチーム医療を行っている。大学医学部附属病院である当院では、他講座・診療科との連携治療における形成外科診療の意義や、実際のチーム医療の知識・経験を習得することが十分に可能である。

【リハビリテーション科】

山梨大学リハビリテーション科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨大学医学部附属病院
2. プログラム責任者名：谷口 直史
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：谷口 直史
Tel : 055-273-6768
E-Mail : naofumit@yamanashi.ac.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 9：00～17：00（祝日除く）
5. プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 2名
2. 連携施設（県内）：①国立甲府病院、②山梨県立あけぼの医療福祉センター、③石和温泉病院、④甲州リハビリテーション病院、⑤石和共立病院、⑥山梨リハビリテーション病院
3. 連携施設（県外）：なし
4. 地域医療研修方針：回復期リハビリテーション病院は峡東地域に多くあります。
回復期リハビリテーション病院（甲州リハビリテーション病院、山梨リハビリテーション病院、石和共立病院、石和温泉病院）を研修中に、回復期から維持期にかかわる地域医療・地域連携の実際を研修していただきます。
5. ロテーション方針：1年目…基幹施設（山梨大学医学部附属病院） 通年
2年目…回復期リハビリテーション病院（甲州リハビリテーション病院、山梨リハビリテーション病院、石和共立病院、石和温泉病院） 通年
3年目…急性期病院（山梨大学医学部附属病院、国立甲府病院）、
回復期・維持期病院（石和温泉病院・あけぼの医療福祉センター） 半年ずつ

1年目は山梨大学医学部附属病院で通年研修します。
2年目は4施設の中から選び通年研修します。
3年目は4施設の中から半年ずつ選択し研修します。
なお、2年目及び3年目の研修先は専攻医自身が選択します。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 国内でも有数の高齢化社会を迎える山梨のリハビリテーション医療を支え、新たな専門医の育成を行う指導的なリハビリテーション科専門医を育てる教育システムを構築しています。またリハビリテーション領域の研究の発展のために基礎的な知識、研究方法を身につけ、研究を専門医取得後も継続して行うことのできる医師を育てることを目標としています。
2. 山梨大学医学部附属病院は 618 床の病床を持つ特定機能病院で、様々な高度医療を実施しています。その中でリハビリテーション部門は中央診療部門として年間約 1300 名の患者のリハビリテーション医療に携わっています。疾患の内容は急性期疾患、整形外科術後、脳血管障害、神経難病など多岐にわたり、研修中に多くの症例を経験することができます。一方、大学病院では様々な研究も行っており、臨床と同時に研究を行うことも可能です。リハビリテーション部門では、研修中にテーマを見つけた場合に、さらに大学院に進学し、博士の学位取得を目指し研究を行うことが可能です。
3. 関連研修施設は全て山梨県内にあり、回復期病床をもつリハビリテーション専門病院や国内有数の膝関節鏡手術件数を誇る総合病院や肢体不自由児施設および重症心身障害児施設からなります。このため後期研修プログラムの 3 年間で、急性期から回復期、回復期から維持期へと継続されるリハビリテーションを実際に研修します。また、切断や小児など専門性の高い分野やスポーツのリハビリテーションについても学ぶことができます。
4. 山梨大学リハビリテーション科専門研修プログラムは、日本専門医機構のリハビリテーション科研修委員会が提唱するプログラム制度に準拠しており、本プログラム終了後にてリハビリテーション科専門医認定の申請資格基準を満たしています。

【総合診療科】

甲府共立病院群総合診療専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：甲府共立病院
2. プログラム責任者名：志村 直子
3. プログラム内容問い合わせ担当者名：井口 誠二
Tel : 055-226-3131
E-Mail : senmoni@s.yamanashi-min.jp
4. 問い合わせ可能日時：月～金 8:50～17:10 土 8:50～13:00（祝日・第4土曜除く）
5. プログラム説明会開催日：随時開催。ご都合のつく日でご相談ください。



2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年・3名
2. 連携施設（県内）：①山梨大学医学部附属病院、②山梨県立中央病院、③巨摩共立病院、④武川診療所、⑤石和共立病院、⑥御坂共立診療所
3. 連携施設（県外）：なし
4. 地域医療研修方針/ローテーション方針：

1年目は基幹施設である甲府共立病院で内科研修。2年目は甲府共立病院で総合診療専門研修Ⅱと小児科研修、救急科研修を行います。

3年目は総合診療専門研修Ⅰ。巨摩共立病院、石和共立病院、武川診療所、御坂共立診療所から選択できますが、本プログラムでは僻地医療の担い手を養成するため、武川診療所での研修を推奨しています。将来の医師像や到達状況によってローテーションを柔軟に変えていきます。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	甲府共立病院											
	領域	内科											
2年目	施設名	甲府共立病院											
	領域	総診Ⅱ						救急			小児		
3年目	施設名	武川診療所											
	領域	総診Ⅰ											



3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

1. 山梨県初の家庭医療研修施設

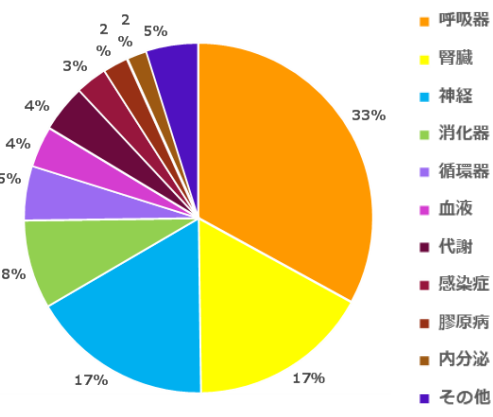
2008年に山梨県で初めて日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門研修プログラムに認定。今まで3名の家庭医療専門医を輩出し、家庭医の養成に努めてきました。現在は専攻医5名が在籍しています。家庭医療専門医を養成してきた経験を生かして総合診療専門医養成を進めています。

2. 山梨県初の総合診療病棟

甲府共立病院は、2010年に山梨県で初めて総合診療病棟を立ち上げました。総合診療病棟では、患者さんの抱えるさまざまな問題に、多職種で総合的にアプローチしています。また、初期・後期研修医の教育病棟としても機能し、多彩なカンファレンスを開催しています。



平成 29 年の総合診療病棟に入院した患者を疾患別にまとめました。各疾患を幅広く経験できることがわかります。



3. 充実した指導体制

4人の家庭医療専門医のほかに、プログラム全体で日本プライマリ・ケア連合学会認定医が6人在籍しています。現場での経験を基盤とした総合診療専門医に必要な総合的な知識・技術・態度を指導します。また、ポートフォリオ作成の指導も責任をもって行います。



遠藤武男Dr (巨摩)
2011年専門医取得



志村直子Dr (甲府)
2013年専門医取得



白井章太Dr (武川)
2015年専門医取得



塚原恭平Dr (甲府)
2021年専門医取得

4. 多彩なフィールド、豊富な症例

急性期病院、療養病棟や回復期リハビリテーション病棟を持つ中小病院、診療所など、さまざまなフィールドがあります。また、すべての病院で救急医療を行っており、すべての病院・診療所で在宅医療を展開しています。専攻医は、各フィールドでの診療を経験できるとともに、救急・外来、病棟、在宅と、継続して患者さんに関わっていくことができます。

5. 後期研修委員会と家庭医部会による手厚いサポートと評価

全ての専攻医/後期研修医は後期研修委員会に所属し、毎月研修の総括を行い、指導医からの評価を受けます。研修上の問題点なども後期研修委員会で議論します。また、総合診療専門プログラムの専攻医は家庭医部会に所属し、定期的に振り返りや学習会を行い、総合診療に対する理解を深めます。

【総合診療科】

市立甲府病院総合診療科専門研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：市立甲府病院
2. プログラム責任者名：岩崎 康一
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：岩崎 康一
Tel : 055-244-1111
E-Mail : iwa1351@gmail.com
4. 問い合わせ可能日時：月～金 8：30～17：15（祝日除く）
5. 集団プログラム説明会開催日：未定

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 2名
2. 連携施設（県内）：①牧丘病院、②飯富病院、③巨摩共立病院
3. 連携施設（県外）：なし
4. 地域医療研修方針：小規模病院や診療所等で、在宅医療など様々な医療現場を経験する。
単に医学的問題だけでなく、生活背景、社会背景、地域・風土などを考慮しながら、幅広く総合的に判断する視点を養い、ジェネラリストとして必要な具体的能力を身につける。
地域の保健・医療・福祉システムを理解し、地域のニーズやヘルスケアシステムのなか、他職種や住民と良好な人間関係、協力関係を築き、チームとして連携することを学ぶ。
5. ローテーション方針：専攻医の希望と連携施設に偏りが生じないことを踏まえる中で、市立甲府病院総合診療科専門研修プログラム管理委員会にて決定する予定である。
また、専門研修3年目の6ヶ月～1年の期間で連携施設へのローテートを予定している。

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

すべての研修期間は総合内科・救急科の指導の下、修得状況やメンタル面を含めた管理を行う。

【1年目】

総合内科研修9ヶ月（救急医学3ヶ月を含む）

▷総合内科で初診外来を中心とした診療を学ぶ。初診患者から病歴や普段の生活を聞き出し、診断の根拠とすること、家族の意見などを含めて患者がより良く過ごすためにはどのような方策があるかを学ぶ。救急患者には診断治療をさらに集約して行わなくてはならない。救急の場で何を優先としなくてはならないかを学ぶ。

【2年目】

小児科3ヶ月 ▷小児科で外来診療、予防、検診事業、救急対応、入院診療を学ぶ。
 その他選択科6ヶ月▷初期研修で研修していない診療科を中心に総合内科、小児科では充分に関われないものについて学ぶ機会を設ける。

【3年目】

巨摩共立病院、山梨市立牧丘病院、身延町早川町組合立飯富病院など、
 在宅診療をしている施設で6-12ヶ月

▷在宅診療、保健福祉事業の活用方法を学ぶ。この期間でプライマリ・ケア連合学会
 家庭医療認定医を満たす症例を経験し、ポートフォリオにより学習管理をする。

○ローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	「総診Ⅱ」 市立甲府病院 総合内科						「内科」 市立甲府 循環器			「救急」 市立甲府 救急科		
	「小児科」 市立甲府病院 小児科			「内科」 市立甲府病院 消化器			「その他」 脳外科		「その他」 外科		「その他」 整形外科	
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	「総診Ⅰ」 山梨市立牧丘病院						「総診Ⅰ」 巨摩共立病院					
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	「総診Ⅰ」 山梨市立牧丘病院						「総診Ⅰ」 巨摩共立病院					

【総合診療科】

山梨県立中央病院総合診療後期研修プログラム

1 基本事項

1. 基幹施設名：山梨県立中央病院
2. プログラム責任者名：三河 貴裕
3. プログラム内容問い合わせ担当医名：三河 貴裕
Tel：055-253-7111 E-Mail：mikawa-bfhh@ych.pref.yamanashi.jp
4. プログラム内容問い合わせ担当者名：石川 知
Tel：055-253-7111 E-Mail：kenshu@ych.pref.yamanashi.jp
5. 問い合わせ可能日時：月～金 8：30～17：15（祝日除く）
6. プログラム説明会開催日：予定あり（詳細決まり次第ホームページに掲載します）

2 プログラム概要

1. 最短研修年数・募集人員：3年 ・ 2名
2. 連携施設（県内）：①甲陽病院、②塩川病院、③武川診療所、④牧丘病院、⑤飯富病院
⑥富士川病院、⑦身延山病院、⑧大月市立中央病院、⑨都留市立病院
3. 連携施設（県外）：①太陽会 安房地域医療センター、②鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山
4. 地域医療研修方針：総合診療プログラムのみが、地域医療機関での研修を長期間できます。
上記地域医療機関は、熱意のある熟練の医師がおり、それに対して若手医師は少ないです。
患者さんにも、病院にも、地域からも必要とされて仕事ができる稀有な環境です。
専門的な知識技術よりも、住民の生活を守るための医療の必要性を感じることができます。
プライマリ・ケアの特徴である「ACCCA」を学ぶことができるのは、総合診療専門プログラムだけです。
総合診療専門研修は診療所・中小病院における総合診療専門研修 I（地域医療）と病院総合診療部門における総合診療専門研修 II で構成されます。当プログラムでは基幹施設において総合診療専門研修 II（総合診療科）を6ヶ月、連携医療機関にて総合診療専門研修 I を12ヶ月、合計で18ヶ月の研修を行います。
必須領域別研修として、基幹施設にて内科12ヶ月、小児科3ヶ月、救急科3ヶ月の研修を行います。その他の領域別研修として、山梨県立中央病院にて整形外科・産婦人科・放射線科・緩和ケア科・耳鼻咽喉科・皮膚科・形成外科・泌尿器科の研修を行うことが可能です。

5. ローテーション方針：

病棟総合医ローテーション（例）

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	「総診Ⅱ」 山梨県立中央病院 総合診療科						「救急」 山梨県立中央病院 救命救急センター			「小児」 山梨県立中央病院 小児科		
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	「総診Ⅰ」 連携医療機関									「その他」 山梨県立中央病院		
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	「内科」 山梨県立中央病院 総合診療科						「内科」 山梨県立中央病院 内科					

プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (9)カ月			総合診療専門研修Ⅱ (9)カ月			
領域別 研修	内科 (6)カ月		小児科 (3)カ月	救急科 (3)カ月		その他 (6)カ月	

3 研修プログラムの特色（特に優れていると考えられる点）

- 山梨県における地域基幹病院にある総合診療科として、外来から病棟、在宅医療までの広い視野と経験を積んだ病院総合診療科医を育てるのが目標です。
- プライマリ・ケアの必要要素として、「ACCCA」という考え方があります。

Accessibility（近接性）：地理的、経済的、時間的、精神的

皆さんなら、遠い病院に通いたいですか？色んなことを話せる人に診てもらいたいと思いませんか？

Comprehensiveness（包括性）：予防から治療、リハまで。全人的医療、Common disease

小児から老人まで頭痛・腹痛・膝痛・気持ちの落ち込みなど、ちゃんと診られますか？禁煙指導するときに、その人の生活背景・家族背景まで考えていますか？本当の全人的医療って、なんでしょう？

Coordination（協調性）：専門医との密接な関係、住民との協調、社会的医療資源の活用

Specialistというのは、自分で決めることではなく、周りの人がみとめて初めて認知されます。誰だって一人では診療できないのです。あなたは患者さんが行ったリハビリ病院や療養型病院、老健がどんなところか知ったうえで転院させていますか？

Continuity（継続性）：ゆりかごから墓場まで、病気の時も健康な時も、病気の時は外来—病棟—外来

病気にならないための関わりが大事です。病気になるのを待っている必要はないのです。でももし見ている人が病気になったら、治療後のケアもしっかり関わりたくありませんか？

Accountability（責任制）：医療内容の監査システム、生涯教育、患者への十分な説明

プライマリ・ケア医に限ったことではありませんが、地域が必要としている医師を育てる責任があります。

- 「それはうちの科ではない」「それはよそに行って聞いてください」という言葉は、総合病院でよく聞かれる言葉ですが、本当にそれでよいのでしょうか？
- 私たちは、目の前の患者さんのニーズに幅広く答えることができる、その人が病人ではなく健康に生活できるような環境作りを目指すことができます、そんな総合診療医を養成したいと思っています。